

## 第2回通学区域制に関する有識者会議について

徳島県教育委員会教育創生課

## 第2回通学区域制に関する有識者会議の概要

第2回通学区域制に関する有識者会議の概要につきましては、次のとおりです。

1 日 時 平成30年10月29日（月） 午後3時から午後5時まで

2 場 所 徳島県庁 9階 教育委員室（徳島市万代町1丁目1番地）

### 3 出席者

（1） 委員 18名中17名出席

（2） 県 教育創生課長 ほか

### 4 議事の概要

（1） 現行の通学区域制について説明

事務局から、資料1-1 ～ 資料4-2 に基づき説明を行った。

（2） 中学校PTA会長アンケート調査結果及び市町村からの要望内容について説明

事務局から、資料5-1 ～ 資料6 に基づき説明を行った。

（3） 意見交換

事務局からの説明を踏まえ、委員による意見交換が行われた。

### 5 意見交換の概要

- 現行の通学区域制には、生徒の遠距離通学を抑制したり、家庭の経済的負担を軽減するといった効果があるとの意見が出された一方、生徒の進路選択の幅を狭め、入学者選抜に不公平感があるといった課題も指摘され、委員の間でその効果と課題について確認することができた。
- 城ノ内高校が募集停止となる平成33年度、及びその前年の平成32年度入学者選抜において通学区域制を撤廃することについては、それに伴う新たな課題や影響の大きさを考慮する必要があるとの意見でまとまり、ただちに撤廃しないことが望ましいとの方向性が確認された。
- 短期的な課題である城ノ内高校の募集停止に伴う対応については、通学区域制の撤廃は除き、何らかの改善策を実施する必要性は認められるとの意見で一致し、引き続き、次回以降の会議において具体的に検討することが確認された。
- 通学区域制の存廃も含め、将来的なその在り方については、PTA会長対象のアンケート調査結果にも見られるように多様な考え方があり、また、教育を取り巻く環境の変化を見通すことは困難であることから、中長期的な課題として捉えることが望ましいとの認識が委員の間から示され、回を改め、さらに議論を深めることが確認された。
- 今後の人口減少社会を見据えた場合、通学区域制の議論と並行して、県内各地域に位置する普通科高校の特色化・魅力化を推進することが重要であるとの意見が、複数の委員から出された。

## 第2回通学区域制に関する有識者会議

### 次 第

日時 平成30年10月29日(月)

午後3時から

場所 県庁9階 教育委員室

#### 1 開会

#### 2 議事

(1) 現行の通学区域制について

(2) P T A会長対象のアンケート調査結果及び市町村からの要望内容について

(3) 意見交換

(4) その他

#### 3 閉会

#### 配付物一覧

(1) 次第(本紙)

(2) 会場配席図(本紙裏面)

(3) 通学区域制に関する有識者会議委員一覧

#### [資料]

資料1-1 徳島県公立高等学校普通科の通学区域

資料1-2 徳島県公立・私立高等学校の配置図

資料2 通学区域制に関するこれまでの経緯

資料3 中学校3年生の生徒数推移予測

資料4-1 通学区域制に関する全国の状況

資料4-2 平成30年度全国高等学校数・生徒数

資料5-1 通学区域制に関するアンケート調査結果(概要版)

資料5-2 通学区域制に関するアンケート調査結果(詳細版)

資料6 通学区域制に対する市町村からの要望

#### [参考]

参考1-1 通学区域制に関する聞き取り調査結果(概要版)

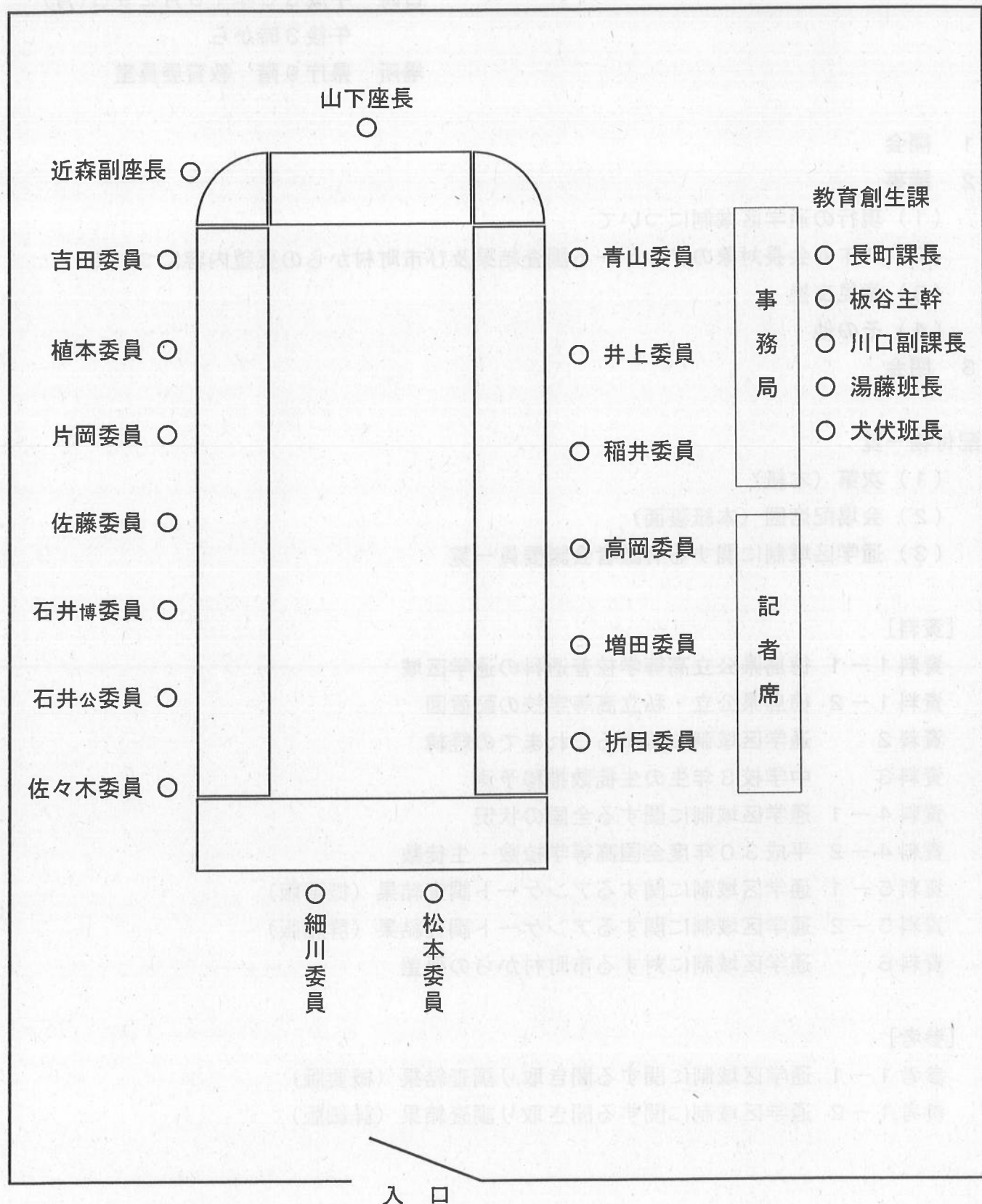
参考1-2 通学区域制に関する聞き取り調査結果(詳細版)

## 第2回通学区域制に関する有識者会議 会場配席図

日時 平成30年10月29日(月)

午後3時から

場所 県庁9階 教育委員室





通学区域制に関する有識者会議委員一覧

| 分 野      | 氏 名     | 性別 | 役 職 等                             |
|----------|---------|----|-----------------------------------|
| 学識経験者    | 山 下 一 夫 | 男  | 鳴門教育大学 学長                         |
|          | 近 森 由記子 | 女  | 徳島県青年国際交流機構 参与                    |
|          | 近 藤 明 子 | 女  | 四国大学経営情報学部 准教授                    |
|          | 吉 田 基 晴 | 男  | 株式会社あわえ 代表取締役                     |
|          | 植 本 修 子 | 女  | ハレとケデザイン舎 代表取締役                   |
|          | 片 岡 伸 世 | 女  | 石井町中央公民館 社会教育指導員                  |
|          | 佐 藤 知 子 | 女  | 大塚製薬株式会社 総務部 部長補佐                 |
| 市町村教育委員会 | 石 井 博   | 男  | 徳島県市町村教育委員会連合会 会長<br>徳島市教育委員会 教育長 |
|          | 石 井 公 生 | 男  | 板野町教育委員会 教育長                      |
| 高等学校関係者  | 佐々木 尊   | 男  | 徳島県高等学校長協会 会長<br>徳島県立城東高等学校 校長    |
|          | 細 川 眞 文 | 女  | 徳島県立小松島高等学校 校長                    |
| 中学校関係者   | 松 本 賢 治 | 男  | 徳島県中学校長会 会長<br>徳島市富田中学校 校長        |
|          | 折 目 泰 子 | 女  | 鳴門市鳴門中学校 校長                       |
| 小学校関係者   | 増 田 章 生 | 男  | 徳島県小学校長会 会長<br>小松島市南小松島小学校 校長     |
|          | 高 岡 和 恵 | 女  | 吉野川市立学島小学校 校長                     |
| PTA関係者   | 稲 井 弘 明 | 男  | 徳島県高等学校PTA連合会 会長                  |
| 学校評議員    | 井 上 浩 子 | 女  | 徳島県立富岡東中学校・高等学校<br>学校評議員          |
| 徳島県教育委員会 | 青 山 佳 裕 | 男  | 徳島県教育委員会 教育次長                     |



## 徳島県公立高等学校普通科の通学区域

## 1 徳島県立高等学校について

| 学区  | 高 校                      | 区 域                                                         |
|-----|--------------------------|-------------------------------------------------------------|
| 第 1 | 小松島，富岡西，那賀，海部            | 小松島市，阿南市，勝浦町，上勝町，佐那河内村，那賀町，美波町，牟岐町，海陽町                      |
| 第 2 | 鳴門，板野，阿波，名西，阿波西，穴吹，脇町，池田 | 鳴門市，吉野川市，阿波市，美馬市，三好市，石井町，神山町，松茂町，北島町，藍住町，板野町，上板町，つるぎ町，東みよし町 |
| 第 3 | 城東，城南，城北，徳島北             | 徳島市                                                         |
|     | 城ノ内，富岡東，川島               | 県内全域                                                        |

## ※ 重複区域

下表の区域に保護者の住所がある生徒は，上表の第 3 学区の高校に通学することができる。

| 区 域                   |
|-----------------------|
| 佐那河内村，松茂町，北島町，藍住町，神山町 |

## 2 徳島市立高等学校について

| 学区 | 高 校  | 区 域                       |
|----|------|---------------------------|
|    | 徳島市立 | 徳島市，佐那河内村，松茂町，北島町，藍住町，神山町 |

## 3 徳島県立高等学校及び徳島市立高等学校に共通する事項

## (1) 学区外からの合格者数

学区外からの合格者数は，第 1 学区は学区内総募集定員の 10 % 以内，第 2 学区は 8 % 以内とし，第 3 学区は高校ごとに募集定員の 8 % 以内としている。

ただし，特色選抜でのトップスポーツ校育成事業の指定校における指定競技による学区外からの合格者については，この制限を適用していない。

## (2) その他の学科の通学区域

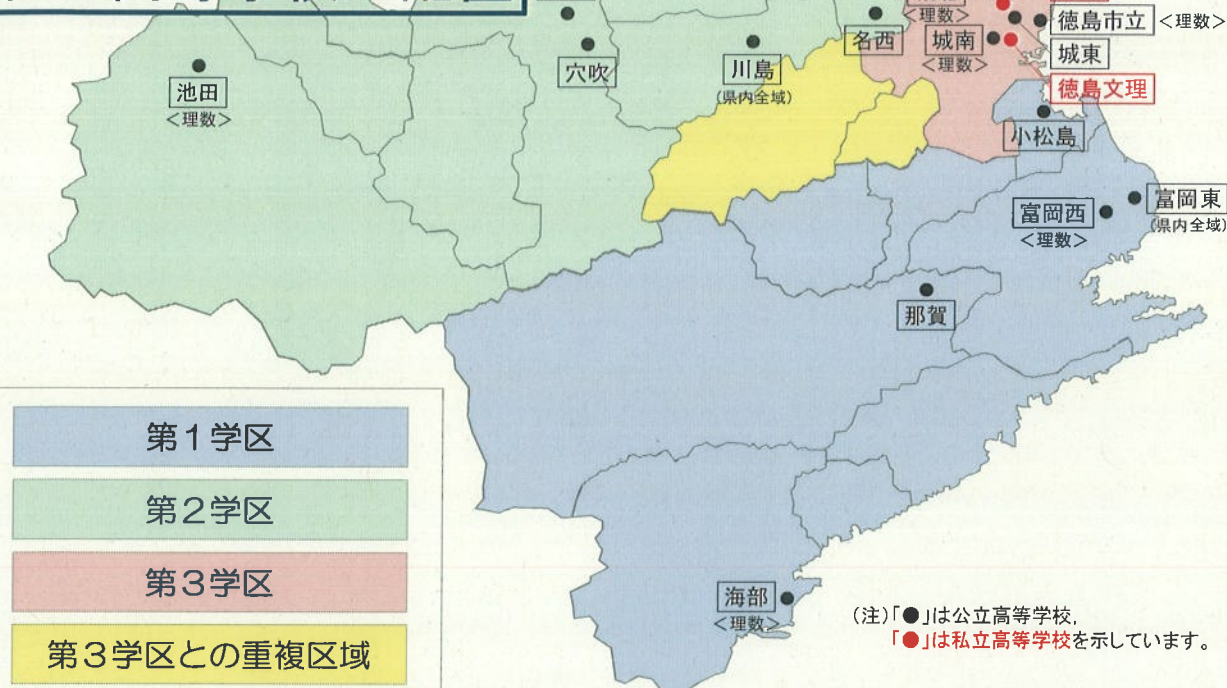
全日制課程の専門学科及び総合学科，定時制課程の全ての学科の通学区域は，県内全域としている。





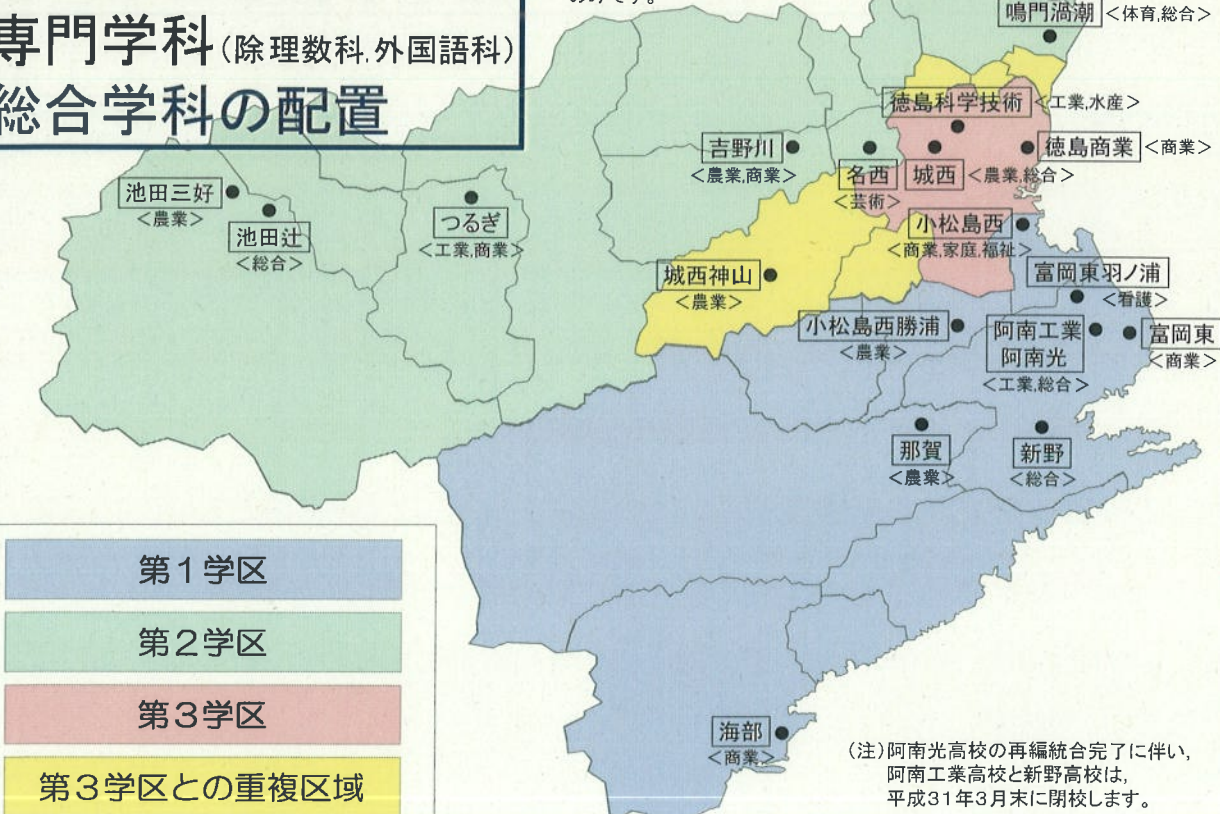
# 徳島県公立高等学校 普通科(含理数科, 外国語科) 私立高等学校の配置

(注) 通学区を設定しているのは、  
徳島県公立高等学校の普通科  
のみです。



# 徳島県公立高等学校 専門学科(除理数科, 外国語科) 総合学科の配置

(注) 通学区を設定しているのは、  
徳島県公立高等学校の普通科  
のみです。







## 通学区域制に関するこれまでの経緯

昭和46年度まで 2学区制（甲学区：県南部，乙学区：県北部，徳島市は共通学区）

昭和47年度 総合選抜制度を開始（城東高校，城南高校，城北高校，徳島市立高校）  
3学区制の導入（丙学区：徳島市を設置）  
重複区域の指定（佐那河内村，松茂町，北島町，藍住町）  
流入率の設定（丙学区のみ：20%）

昭和51年度 重複区域に神山町を追加  
流入率の変更（15%）

昭和53年度 流入率の変更（13%）

昭和55年度 流入率の変更（12%）  
総合選抜校に城ノ内高校を追加

昭和57年度 流入率の変更（8%）

平成 9年度 総合選抜校に徳島北高校を追加

平成16年度 流入率の設定及び変更 ※学区の名称を，甲乙丙から第1～第3に変更  
（第1学区，第2学区に8%，第3学区は「学校ごと」の8%に設定）  
総合選抜制度の廃止  
城ノ内高校の通学区域を県内全域（募集人員120人）

平成18年度 城南高校応用数理科，徳島北高校国際英語科及び川島高校の通学区域を県内全域

平成19年度 流入率の変更（第1学区のみ：8% → 10%）

平成22年度 富岡東高校の通学区域を県内全域

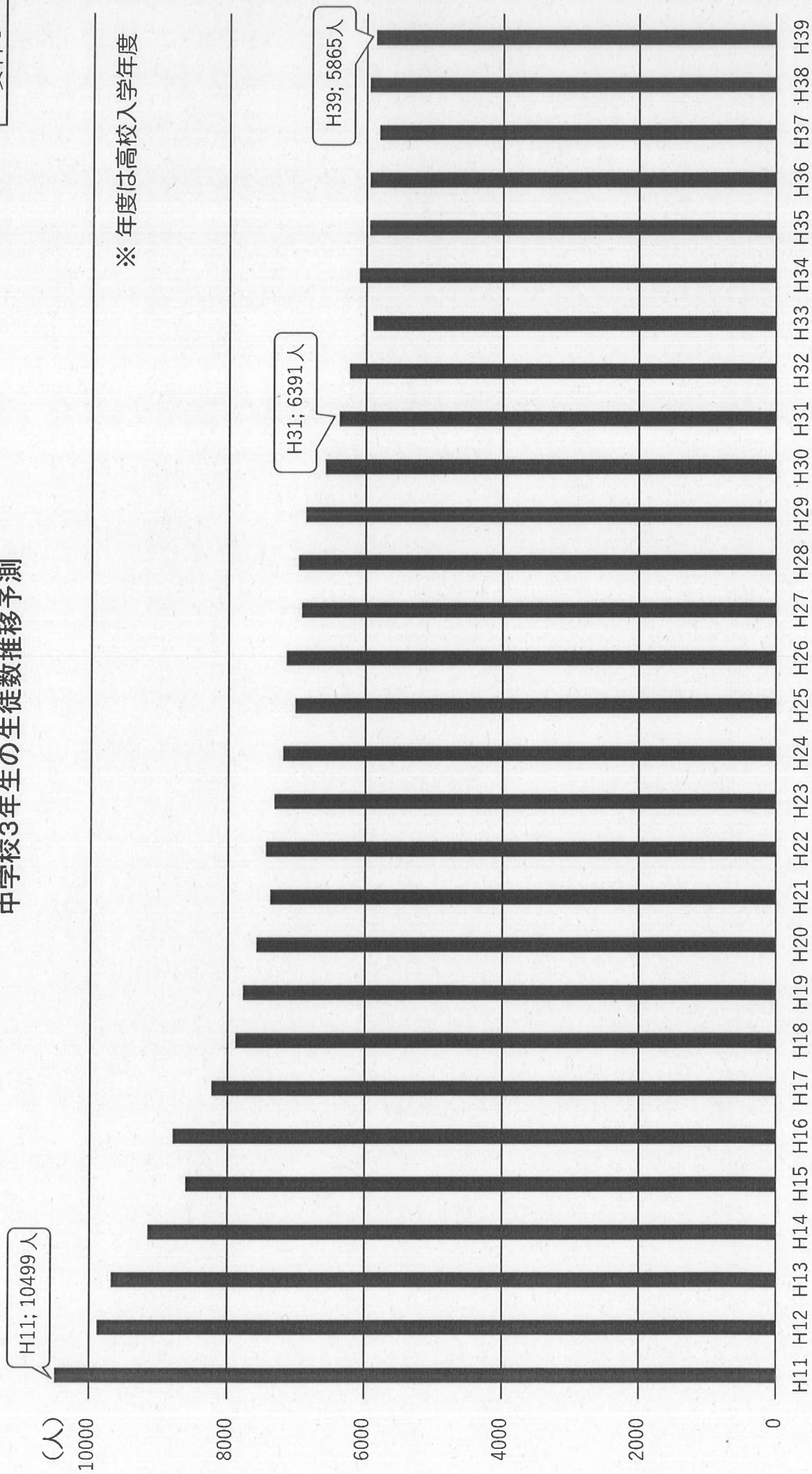
平成29年度 城ノ内中学・高校の中等教育学校への移行（平成32年4月）を表明  
城ノ内高校の生徒募集停止（平成33年度入学者選抜から）を表明

平成30年度 城北高校理数科学科の通学区域を県内全域  
城ノ内高校の募集人員を変更（120人→80人）





## 中学校3年生の生徒数推移予測



(出典)文部科学省「学校基本調査」



## 通学区域制に関する全国の状況

### 【通学区域を設定している】 22 道府県

北海道，岩手県，山形県，福島県  
 千葉県  
 富山県，長野県  
 愛知県，三重県  
 京都府，兵庫県  
 島根県，岡山県  
 徳島県，香川県，愛媛県  
 福岡県，佐賀県，長崎県，熊本県，鹿児島県，沖縄県

### 【通学区域を設定していない】 25 都府県

#### ＜廃止年度＞

|          |                  |
|----------|------------------|
| 平成 15 年度 | 東京都，和歌山県         |
| 平成 16 年度 | 埼玉県，福井県          |
| 平成 17 年度 | 青森県，秋田県，神奈川県，石川県 |
| 平成 18 年度 | 茨城県，滋賀県，奈良県，広島県  |
| 平成 19 年度 | 群馬県，山梨県，鳥取県      |
| 平成 20 年度 | 新潟県，静岡県，大分県，宮崎県  |
| 平成 22 年度 | 宮城県              |
| 平成 24 年度 | 高知県              |
| 平成 26 年度 | 栃木県，大阪府          |
| 平成 28 年度 | 山口県              |
| 平成 30 年度 | 岐阜県              |

※ 平成 29 年 10 月 岩手県教育委員会調べ





## 平成30年度全国高等学校数・生徒数

※ 学校数・生徒数は、全日制及び定時制の数値を示す。

|       | 学 校 数    |            |           |            |           |            | 生 徒 数     |            |           |            |           |            |
|-------|----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|-----------|------------|
|       | 計<br>(校) | 国公立<br>(校) | 私立<br>(校) | 私立の<br>順 位 | 割合<br>(%) | 割合の<br>順 位 | 計<br>(人)  | 国公立<br>(人) | 私立<br>(人) | 私立の<br>順 位 | 割合<br>(%) | 割合の<br>順 位 |
| 北 海 道 | 280      | 229        | 51        | 8          | 18.2      | 35         | 124,896   | 94,975     | 29,921    | 11         | 24.0      | 32         |
| 青 森   | 77       | 60         | 17        | 21         | 22.1      | 24         | 34,642    | 25,648     | 8,994     | 30         | 26.0      | 27         |
| 岩 手   | 80       | 67         | 13        | 30         | 16.3      | 42         | 33,485    | 26,881     | 6,604     | 35         | 19.7      | 42         |
| 宮 城   | 94       | 76         | 18        | 19         | 19.1      | 28         | 59,851    | 42,944     | 16,907    | 15         | 28.2      | 22         |
| 秋 田   | 54       | 49         | 5         | 45         | 9.3       | 45         | 23,916    | 21,494     | 2,422     | 46         | 10.1      | 45         |
| 山 形   | 61       | 47         | 14        | 27         | 23.0      | 23         | 30,559    | 20,951     | 9,608     | 28         | 31.4      | 14         |
| 福 島   | 111      | 93         | 18        | 19         | 16.2      | 43         | 50,682    | 40,487     | 10,195    | 26         | 20.1      | 41         |
| 茨 城   | 121      | 97         | 24        | 13         | 19.8      | 27         | 76,906    | 56,093     | 20,813    | 13         | 27.1      | 25         |
| 栃 木   | 75       | 61         | 14        | 27         | 18.7      | 32         | 53,276    | 36,957     | 16,319    | 17         | 30.6      | 16         |
| 群 馬   | 79       | 66         | 13        | 30         | 16.5      | 41         | 52,160    | 39,356     | 12,804    | 20         | 24.5      | 30         |
| 埼 玉   | 194      | 146        | 48        | 9          | 24.7      | 21         | 175,461   | 119,661    | 55,800    | 5          | 31.8      | 10         |
| 千 葉   | 183      | 129        | 54        | 6          | 29.5      | 8          | 150,609   | 102,396    | 48,213    | 7          | 32.0      | 9          |
| 東 京   | 429      | 192        | 237       | 1          | 55.2      | 1          | 314,305   | 139,003    | 175,302   | 1          | 55.8      | 1          |
| 神 奈 川 | 235      | 156        | 79        | 3          | 33.6      | 5          | 206,520   | 136,129    | 70,391    | 3          | 34.1      | 6          |
| 新 潟   | 102      | 86         | 16        | 23         | 15.7      | 44         | 56,538    | 43,673     | 12,865    | 19         | 22.8      | 34         |
| 富 山   | 53       | 43         | 10        | 35         | 18.9      | 31         | 28,035    | 21,860     | 6,175     | 38         | 22.0      | 36         |
| 石 川   | 56       | 46         | 10        | 35         | 17.9      | 37         | 31,913    | 23,144     | 8,769     | 32         | 27.5      | 24         |
| 福 井   | 35       | 28         | 7         | 44         | 20.0      | 26         | 22,191    | 16,039     | 6,152     | 39         | 27.7      | 23         |
| 山 梨   | 42       | 31         | 11        | 34         | 26.2      | 14         | 24,577    | 18,159     | 6,418     | 36         | 26.1      | 26         |
| 長 野   | 100      | 83         | 17        | 21         | 17.0      | 40         | 57,223    | 46,657     | 10,566    | 23         | 18.5      | 43         |
| 岐 阜   | 81       | 66         | 15        | 25         | 18.5      | 34         | 55,386    | 43,693     | 11,693    | 22         | 21.1      | 39         |
| 静 岡   | 138      | 95         | 43        | 10         | 31.2      | 6          | 98,819    | 66,917     | 31,902    | 9          | 32.3      | 8          |
| 愛 知   | 221      | 166        | 55        | 5          | 24.9      | 20         | 197,014   | 136,109    | 60,905    | 4          | 30.9      | 15         |
| 三 重   | 70       | 57         | 13        | 30         | 18.6      | 33         | 48,240    | 37,772     | 10,468    | 24         | 21.7      | 37         |
| 滋 賀   | 56       | 46         | 10        | 35         | 17.9      | 37         | 39,466    | 31,138     | 8,328     | 33         | 21.1      | 39         |
| 京 都   | 105      | 65         | 40        | 11         | 38.1      | 2          | 70,648    | 39,193     | 31,455    | 10         | 44.5      | 2          |
| 大 阪   | 260      | 163        | 97        | 2          | 37.3      | 3          | 226,780   | 132,791    | 93,989    | 2          | 41.4      | 3          |
| 兵 庫   | 205      | 153        | 52        | 7          | 25.4      | 16         | 139,799   | 104,411    | 35,388    | 8          | 25.3      | 28         |
| 奈 良   | 53       | 37         | 16        | 23         | 30.2      | 7          | 35,596    | 25,262     | 10,334    | 25         | 29.0      | 20         |
| 和 歌 山 | 47       | 38         | 9         | 40         | 19.1      | 28         | 26,422    | 21,598     | 4,824     | 42         | 18.3      | 44         |
| 鳥 取   | 32       | 24         | 8         | 43         | 25.0      | 18         | 14,971    | 11,588     | 3,383     | 44         | 22.6      | 35         |
| 島 根   | 47       | 37         | 10        | 35         | 21.3      | 25         | 18,549    | 14,520     | 4,029     | 43         | 21.7      | 37         |
| 岡 山   | 86       | 63         | 23        | 14         | 26.7      | 13         | 53,381    | 36,400     | 16,981    | 14         | 31.8      | 10         |
| 広 島   | 131      | 95         | 36        | 12         | 27.5      | 12         | 71,866    | 48,474     | 23,392    | 12         | 32.5      | 7          |
| 山 口   | 79       | 59         | 20        | 18         | 25.3      | 17         | 33,588    | 23,446     | 10,142    | 27         | 30.2      | 17         |
| 徳 島   | 39       | 36         | 3         | 47         | 7.7       | 46         | 18,997    | 18,135     | 862       | 47         | 4.5       | 47         |
| 香 川   | 40       | 30         | 10        | 35         | 25.0      | 18         | 26,163    | 19,890     | 6,273     | 37         | 24.0      | 32         |
| 愛 媛   | 66       | 54         | 12        | 33         | 18.2      | 35         | 33,685    | 25,394     | 8,291     | 34         | 24.6      | 29         |
| 高 知   | 47       | 38         | 9         | 40         | 19.1      | 28         | 18,680    | 13,190     | 5,490     | 41         | 29.4      | 19         |
| 福 岡   | 165      | 105        | 60        | 4          | 36.4      | 4          | 129,803   | 76,358     | 53,445    | 6          | 41.2      | 4          |
| 佐 賀   | 51       | 42         | 9         | 40         | 17.6      | 39         | 24,374    | 18,475     | 5,899     | 40         | 24.2      | 31         |
| 長 崎   | 79       | 57         | 22        | 15         | 27.8      | 9          | 37,397    | 25,581     | 11,816    | 21         | 31.6      | 13         |
| 熊 本   | 76       | 55         | 21        | 16         | 27.6      | 11         | 47,068    | 30,341     | 16,727    | 16         | 35.5      | 5          |
| 大 分   | 55       | 41         | 14        | 27         | 25.5      | 15         | 30,805    | 22,022     | 8,783     | 31         | 28.5      | 21         |
| 宮 崎   | 54       | 39         | 15        | 25         | 27.8      | 9          | 30,851    | 21,684     | 9,167     | 29         | 29.7      | 18         |
| 鹿 児 島 | 89       | 68         | 21        | 16         | 23.6      | 22         | 44,746    | 30,576     | 14,170    | 18         | 31.7      | 12         |
| 沖 縄   | 64       | 60         | 4         | 46         | 6.3       | 47         | 45,658    | 42,801     | 2,857     | 45         | 6.3       | 46         |
| 全 国 計 | 4,897    | 3,574      | 1,323     |            | 27.0      |            | 3,226,497 | 2,190,266  | 1,036,231 |            | 32.1      |            |

(出典) 文部科学省「学校基本調査」





## 通学区域制に関するアンケート調査結果（概要版）

この資料は、通学区域制に関して、県内の市町村立中学校及び国立中学校の各PTA会長から頂いた御意見（別添）を整理したものです。

### 【評価できる点】

- ・生徒にとって地元高校へ進学しやすい（遠距離通学を抑制している）。
- ・保護者にとって経済的負担が軽減される。
- ・地域の活性化につながっている（学校と地域との結びつきが培われる）。
- ・地元高校の育成・存続につながっている。
- ・中学校における進路指導が安定的に行われている。
- ・同じ中学校から進学する生徒が多く、円滑な高校生活への移行につながっている。
- ・徳島市内普通科高校への過度な一極集中を緩和し、学校間格差の拡大を防いでいる。

等

### 【課題である点】

- ・中学生の進路選択の幅が狭められている。
- ・入学者選抜に不公平感を覚える。
- ・生徒の学力向上につながらない（切磋琢磨する機会が失われている）。
- ・地域によっては、自治体からの人口流出の要因となっている。
- ・通学区域の境界に位置する自治体や学校への対応が必要である。
- ・城ノ内高校の募集停止に伴い何らかの対応が必要である。
- ・流入率の設定や県内全域を通学区域とする学科の設定により、不本意な遠距離通学を強いられる生徒がいる。

等

### 【望ましい改善策の在り方】

- ・通学区域制の廃止（含 段階的な廃止）。
- ・現行制度の維持（取り組むべき課題が他にある）。
- ・高校の特色化・魅力化の推進（各地域の高校の育成）。
- ・通学区域間の流入率の見直し。
- ・通学区域（含 重複区域）の見直し。
- ・県内全域を通学区域とする新たな学校・学科の設定。
- ・高校の募集定員の増加。
- ・入学者選抜制度の改善。

等

## 【その他の意見】

- ・生徒の進路選択の幅を狭めることは、未来の選択幅までも狭めることになる。進学や就職を見据えた際、生徒自身が考え、高校を選択することは重要である。
- ・通学区域制の撤廃により、各高校は生徒確保に向けて魅力づくりに積極的に取り組む。それに伴い、中学生は具体的な目的意識を持って勉強に励むようになる。
- ・通学区域の拡大は、通学にかかる経済的負担の増大につながる。それに伴い、家庭の経済格差が子供の進路選択に影響を及ぼすことが懸念される。
- ・公共交通機関は大雨による運休や遅延も多くあるが、高校は大雨警報だけでは休校にならない。遠距離通学が増加する場合に懸念される課題である。
- ・通学区域制の変更が及ぼす影響や効果は、明確にはわからない。数年後の見通しを立て、モデル的に変更を実施し、その影響・効果を十分に検証すべきである。
- ・今回の通学区域制の見直しが、生徒、保護者の負担増大や生徒の一極集中、自治体にとっては人口減少につながらないよう配慮すべきである。
- ・現行制度の性急な見直しは生徒や教育現場の混乱を招き、部分的な変更は新たな不公平感を生む恐れがあることから、時間をかけて慎重に検討すべきである。
- ・学区外から徳島市内への進学も、時間的・経済的負担はかかる。生徒が進学したいと思える地元高校の育成という観点から改善策を検討する必要がある。
- ・通学区域制の見直しと併せて、寮の整備など、自宅外から通学するための施設について検討する必要がある。
- ・通学区域制の見直しも大切だが、人口減少が著しい県南部や県西部に位置する高校の育成について議論することを優先すべきである。
- ・徳島市立高校については、徳島市在住の中学生が進学しやすいよう、通学区域制の運用を県立高校と異なるものとすべきである。

## 通学区域制に関するアンケート調査結果(詳細版)

徳島県教育委員会では、第2回通学区域制に関する有識者会議を開催するにあたり、県内の市町村立中学校及び国立中学校のPTA会長の意見を把握するため、次の項目についてアンケート調査を実施いたしました。

ここでは、各PTA会長から頂いた御意見を紹介いたします。

- 現行の通学区域制について、評価できると考える点
- 現行の通学区域制について、課題であると考える点
- これからの通学区域制について、流入率の変更や、県内全域を通学区域とする学校・学科の設定、通学区域の見直しなど、望ましいと考える改善策の在り方

|   | 評価できる点                                                                                          | 課題である点                                                                                                                                                                                                                 | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 県内の全日制普通科高校に、地元の中学生の中学生が優先的に進学できるような制度である。                                                      | 県内の全日制普通科高校に地元の中学生の中学生が進学しやすいため、全国に比べ学力面での競争力の低下を招いている。また、希望する高校がありながら、住所により進学を制限されるのは不平等である。                                                                                                                          | 少子高齢化が進む昨今、何かしらの政策(学区制の廃止等)により、これからの徳島県の発展に寄与できる人材を育てる必要があり、進路選択の自由化を進め、競争力を強化しなければならない。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 2 | 学区外の受検が厳しいため、地元の高校に通う生徒が多く、その結果、学区外への流出が少なくなり、地元高校の生徒数確保と地域の活性化につながっている。                        | 徳島市内の普通科では、学区内と学区外の生徒で合格できるであろう得点のボーダーラインが極端に違うため、不公平な受検になり、自由に進みたい高校を選択できない。そのため、毎年少なからず、高校受検のために選択肢が広い第3学区へ転出する生徒がいると聞いており、地元自治体の人口減につながっている。                                                                        | 地域間での不公平性をなくし、徳島県下の中学3年生が行きたい高校を受検できるよう、学区制の廃止を要望する。一方で、鳴門市から徳島市への通学には交通費もかかる。そこで、まずは、鳴門高校に特進クラス等を新設するなどして意欲ある生徒を受け入れ、学区外へと出て行こうとする生徒をつなぎ止める努力をすることが、地元の育成につながるかと考えている。                                                                                                                                                                                              |
| 3 | なし。                                                                                             | 同学力であっても、通学区域制があるため、希望する高校に入れない生徒がいる。徳島市内の子供たちのみ優遇される制度はおかしい。                                                                                                                                                          | 学力による平等な制度とすることを望む。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 4 | 県内における人口比率の高い市町(最大都市の徳島市や人口増加中の北島町や藍住町)にとって、不満がない制度であると思われる。現行制度により、生徒が地元高校に入学しやすくなっている点は評価できる。 | 「徳島市ファースト」で通学区域が設定されており、それ以外の地域では、高校の選択肢が限られている。実質的に「徳島市とそれ以外」で学区を分けているように感じる。また、第2学区は広すぎる。鳴門市と三好市が同じ学区というのはナシセンスである。<br>徳島市内の普通科を受検する場合、学区外の生徒は、同じ学校を受検しているにもかかわらず、学区内の生徒と同じ基準で合否判定がなされていない。また、不合格者が出る高校に偏りがあると感じている。 | 「通学区域をただなくしてしまう」という考え方には賛成しない。自分の意思に反し、通学できない遠い高校にしか合格できない受検生が多く出る可能性がある。<br>従来の、〇〇市や△△町という「市町村単位の学区」を改め、「学校別の校区」の設定を提言する。すなわち、各高校ごとに「受検可能中学校＝校区」、または各中学校ごとに「受検可能高校＝校区」をあらかじめ定め、その高校(中学校)の「校区」にすむ受検生は、校区から自由に志望校を受検する制度である。「校区」は、恣意的ではなく、「通学が可能か否か」という基準で定める。これに加え、各中学校で何パーセントかは、校区外受検を認めるようにしてはどうかと思う。受検可能高校が少なすぎない程度、その中学校では上記のパーセントを高くして、受検ができる高校の選択肢を増やすことを提案する。 |



|                                                                                                             | 評価できる点 | 課題である点                                                                                                                                                                                                                        | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5<br>(記載事項なし)                                                                                               |        | 通学区域の見直しが必要であると考えている。通学に適した場所にある高校が、通学区域外であり続けることは、望ましい状況ではないと思う。                                                                                                                                                             | 大麻中学校の生徒にとつて最も近く、通学しやすい徳島北高校を、学区内の高校として認めていただけるよう配慮をお願いする。                                                                                                                                           |
| 6<br>徳島市への一極集中を緩和し、地元高校の育成が図られる。生徒にとっては、遠距離通学をできる限り抑制している。                                                  |        | 学区内と学区外の生徒では合格に必要な点数が異なり、生徒たちの進路の選択肢が限られてしまう。生徒たちが切磋琢磨する機会が十分に保証されていない。                                                                                                                                                       | 各中学校のPTA会長だけがアンケートに回答するのではなく、各中学校の保護者や生徒にアンケートを実施したり、これから中学校へ入学する小学校の保護者たちにアンケートを実施して、多数の意見を聞く必要があると思う。                                                                                              |
| 7<br>地元の高校へ通いやすい制度であり、友人も多く進学するので、中学生から高校生への移行が容易である。                                                       |        | 学区外から旧総合選抜校への進学は、学区内と比べ求められる学力の差が大きすぎる。                                                                                                                                                                                       | スポーツ、音楽など明確な目標がある場合を除いては、通学区域内への進学が望ましいと考えるが、学力の差だけで夢や目標に近づくことが困難なことは平等でないと思う。                                                                                                                       |
| 8<br>生徒が、居住地に近い普通科に進学しやすい制度である。                                                                             |        | 進路選択の幅を狭めており、第3学区について、学区内と学区外で不公平感を覚える。そのため、徳島市周辺の自治体では、人口流出につながっている。また、城ノ内高校の募集停止に伴う対策が必要であると考ええる。                                                                                                                           | 将来的には、通学区域制は廃止すべきであると思う。その廃止に向けて、段階的な流入率の拡大を提案する。理系は、理数科や応用数理科など、多くの特色ある学科があるが、文系は少ない。文系に特化した学科の開設を提案する。また、高校卒業後の大学進学実績を見ると、徳島市内の普通科に人気が出るのは必然である。徳島市周辺の普通科高校の育成及び魅力アップを図るべきである。                     |
| 9<br>距離的に通学可能な範囲に普通科高校が位置しており、毎年中学3年生の生徒数から算出される高校の募集定員にも、ある程度整合性があることから、地元の普通科高校志望の生徒は、比較的に入学しやすい状況にあると思う。 |        | 通学区域の境界にある鳴門市大麻中学校は、行政区として鳴門市であり、現行制度では、隣接する北島町から受検可能な徳島北高校普通科について、大麻中学校からの受検には制限がある。今切川を挟み、川向かいの大麻町から自転車で行く数十分から数十分程度で通学可能な区域の生徒が、徳島北高校に通学できない矛盾が生じている。                                                                      | 少子化により県下の総人口が減少しており、高校も統廃合や学科再編等で合理化を図りながら保護者・生徒のニーズに応えようとしていると受け止めている。しかし、制度再考の結果、従前は進学を希望し入学していた地元中学の生徒が、さらに遠距離の普通科高校へ進学を余儀なくされるような状況になることは避けたい。                                                   |
| 10<br>ある程度の学力を持っていれば、近くの高校へ進学できる可能性が高く、遠距離通学を抑制していると思う。                                                     |        | 高校によって学力の差が大きく、国公立大学への進学を考えると徳島市内の高校へ進みたいが、通学区域の壁があり不平等である。徳島市に隣接する地域では、地理的に近くても、合格には高い得点が求められる。そこで入試のために、徳島市内に一時的に住所を移す家庭も存在する。                                                                                              | 学区制は廃止して、全県一区にすることが望ましいと考えている。ただし、県下各地に国公立大学へ多数の合格者が出るレベルの高校を分散させることが必要である。                                                                                                                          |
| 11<br>県南部が1つの学区であり、選択できる高校も限られることから、中学時代の同級生が高校になっても多い。また、地元中学校に進学しやすい制度である。                                |        | 小松島市は徳島市と隣接する市でありながら、第3学区への流入率8%という制限があるため、地元中学に通わず、校區外申請して徳島市内の中学校に通学し、徳島市へ進学希望している実態もある。勝浦からも同様の実態があると聞く。公平性の観点から、これはおかしいと思われる。また、小松島・勝浦からの交通アクセスは徳島市へはJR・バスと乗り換えが無く充実しているが、阿南方面は勝浦同様乗り換えが必要になりたいへん不便である。明らかに徳島方面への通学環境が良い。 | 基本的には、地元の子供は地元の学校に通うのが一番良いと考えている。しかしながら、この自由競争の時代に、まだ少子化が著しく進んでいる中では、学区制は廃止すべきであると思う。それぞれの学校にそれぞれの魅力があり、学校単位の頑張りも必要であると思う。この学校でこれかやりたいとか、この学校から次のステージに向かっていくといった選択肢を子供に示せるよう、今の時代に合った形に制度を改善する必要がある。 |

|    | 評価できる点                                                                                                                                                         | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                     |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 | 通学区区域内において、地元生徒が入学できる定員確保が維持されている。                                                                                                                             | 県内全域において、生徒一人一人の自主性や意欲を積極的に尊重していただき、学区外への志望校への受検についても柔軟な対応を希望する。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 少子化が進む現状だからこそ、生徒が行きたいと思う学校があるのなら、通学区の枠にとらわれず、自由に選択できる制度が望ましいと考える。                                                                                                                                                               |
| 13 | 近隣に比較的低い点数でも入学しやすい高校があるため、高校入学のセーフティネットの役割を果たしている。また、近隣の高校への通学は、事件・事故等に巻き込まれるリスクが低く、安全性が高い次元で確保されている。<br>長年、通学区域制が変わらなかつたことにより、中学校における進路・受検指導が安定的に行われていると思われる。 | 第1学区には海部高校が含まれるが、通学は困難であり、入学実績もほとんどなく、実質的には進路の選択肢とはならない。一方、距離的に近く、通学の便も良い、そして生活圏としても近い城南高校が学区外の位置付けである。生徒にとって、学業だけでなく部活動の面でも、レベルに応じて高校を選択できる余地がない。高校選択の幅を狭めることにより、子供たちの未来の選択幅までも狭められている。公共交通機関の不便さ(乗り継ぎの必要性)が、保護者の経済的負担を大きくし、送迎の負担もある。現状は、こうした負担を地方に住む者だけに強要している。不公平な「地域差別」を強いられたいと感じている。<br>通学が便利で魅力を感じる高校があるのに、学区外だから相応な高得点をとすため諦めている生徒がいる。住む地域さえ違っていれば入学できると考えている。志望する高校への入学に不利な学区とされているため、入学に有利な学区内への引っ越しが話題に上る家庭も多く、実際に転出した中学生や世帯も知るところで数件以上実在している。こうした事実は、あってはならない大きな問題である。 | 最寄りの高校をセーフティネット的な位置付けとし、その他の徳島県内の高校であれば、希望する高校へ挑戦する権利を認める。「地域」による格差をなくし、学力で公平・公正に競争できる制度が望ましいと考える。<br>本校保護者の意見は、ほぼ「通学区域制の撤廃」を求めている。通学区域制の撤廃により、各高校が独自の魅力づくりに積極的になると考えられる。それにより、今以上に多くの中学生が、より具体的な目的意識を持って志望する高校を選択できるようになると考える。 |
| 14 | 現在の本県の公共交通機関の利便性を考えると、自宅から遠い学校へ通うのは難しい問題が多いと思うが、現行制度は、この問題をあらかじめ、ある程度、排除している。                                                                                  | 国公立大学や有名私立大学等いわゆる難関大学への進学率を考えると、徳島市内普通科への進学を望む保護者も多いと思う。その場合、学区外から合格するために必要とされる点数が高く、不公平感を覚える保護者は多い。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              | 自宅がJR沿線以外に位置する場合、将来的なバスの減便や路線の廃止等に不安を覚える。素など、自宅外から通学するための施設の施設についても考え余地があると思う。                                                                                                                                                  |
| 15 | 近年、人口減少、少子化が進む中、地元高校の存続という点においては有効であったと思う。                                                                                                                     | 学区外に希望する普通科がある生徒にとっては、進路選択の幅が狭められることとなっている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 特に今の制度に対し満足しているわけではないが、大きな改善をすれば、地元高校の存続や意欲ある生徒の流出が心配される。                                                                                                                                                                       |
| 16 | 流入率が設定されていることから、学区外から流入できる人数の最大数をはきりしている。それぞれの学区内で地元の普通科を希望する生徒の受入れ人数が確保される。                                                                                   | 学区外の高校の特色ある取組に魅力を感じて進学を希望しても、普通科であれば人数の制限があり、希望者数によっては学区外からの受検が難しい。そのため、同じ高校を受検しても、学区の内外によって求められる成績にかかりの差が生じてしまう。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 | 生徒が希望する高校、通学に無理のない高校に進学できることが望ましいと思う。現在、最も近い高校でも通学が困難な地域で生活しているため、高校進学がすなわち一人暮らしや寮での生活をはじめることになり、生徒・保護者にとつて精神的にも経済的にも大きな負担となっている。平地の学校でも片道1時間を超えて通学している話も聞く。へき地の学校に限らず、通学区域や流入率の見直しによって生徒や保護者の負担が大きくなりないように配慮してほしい。             |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 課題である点                                                                                                                                                                                   | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 17 | 遠距離通学を抑制している。基本的に、公立高校普通科は同等の教育を提供しているものと考えると、通学時間が長くなることによる学習時間の減少は望ましくないと考える。                                                                                                                                                                                                                               | 居住地により課題と考えられる点は異なるが、徳島市の視点から考えた場合、市外からの流入により市内の生徒は多くの学校を選択できなくなり、市外へ流出せざるを得なくなる生徒が一定数、出てしまうことが課題である。                                                                                    | 城ノ内高校の募集停止が今回の見直しにつながっていると思われるが、基本的に現行の学区制を維持していただきたいと考える。今後の在り方を検討するにしても、遠距離通学者の増加等、負担が大きくならないようにしてほしい。                                                                                                                                               |
| 18 | 自宅から比較的近い普通科高校に進学することができ、子供たちのためにも、保護者の経済的な負担軽減のために、現行の学区制は評価できる制度である。                                                                                                                                                                                                                                        | 受検希望者を増やすために、県内の各普通科高校がそれぞれの特徴を発揮し、魅力を高める努力が必要となる。                                                                                                                                       | 第3学区内から入学できる定員は維持した上で、第3学区外からの流入率の見直しを行い、学区外からの合格者を増やす。ただし、流入率が高すぎると、周辺に位置する高校の衰退につながるため、適度な流入率の設定が必要になる。                                                                                                                                              |
| 19 | 徳島市外への不本意な遠距離通学による、精神的・身体的・時間的・経済的負担の増大を抑止している。<br>現在の通学区域制は、時代の趨勢による人口減少に歯止めをかけ、地方創生に向けての「徳島ならではの制度の一つである」と評価できる。これにより高校と地域が連携し協力し合うことが可能となり、地域の学校として、地域づくりが推進され、地域の活性化につながっている。生徒が日々慣れ親しんだ街並みを通学することで、地元を愛する心がさらに育まれるため、地方創生にもつながる人づくりの土台となっている。また、幼い頃より親交の深い近所の先輩・後輩・同級生と共に通学できる可能性が高く、精神的安定に寄与する効果が期待できる。 | 徳島市内の普通科高校へ進学を希望している徳島市内の生徒にとって、他学区からの8%という高い流入率により不本意な遠距離通学や入学を強いられている。                                                                                                                 | 学区内の普通科高校よりも、他学区の普通科高校に進学するほうが生徒・保護者の負担が軽減される地域については、通学区域を見直す。また、現行の3通学区域の維持及び第3学区への高い流入率8%の引き下げをお願いする。<br>様々な立場からの意見を十分にくみ取っていただき、遠距離通学者の増加等、生徒・保護者の精神的・身体的・時間的・経済的負担の増大につながる見直しが行われることがないよう願いたい。早急な変更は、生徒・保護者の混乱を招く恐れがあるので、有識者会議では十分審議する時間と回数が必要である。 |
| 20 | 公立高校への進学率が9割に上る本県では、その内の約6割を普通科進学者が占めている。通学区域制があることにより、一般選抜において著しい定員超過や定員割れが生じにくい。そのため、ほとんどの生徒が一般選抜で進路が決定しており、第2次募集の実施は小規模なものです。新年度に備えることがスムーズにできる。<br>普通科高校において、一定水準以上の地元生徒占有率が維持できることにより、各地域に当該地域の生徒がとどまることで、地元高校と地域が連携・協働でき、地域の活性化につながっている。                                                                | 学区外からの流入率の設定や、県内全域を通学区域とする普通科高校や理数科など専門学科の設置により、他学区から第3学区内の高校に進学することが可能となり、そのため、徳島市内の普通科高校進学希望生徒の約1割が、希望に反して他学区の普通科に進学せざるを得なくなっている。この結果、遠距離通学や不本意入学により、生徒は時間的・身体的に、また保護者は経済的に負担を強いられている。 | 第3学区にある普通科高校の通学区域を県内全域にし、流入率を引き上げることにより、徳島市内の普通科に進学することができただけは市内の生徒が合格できなくなるといふ事態は認められない。その場合は、流入する生徒数分に合わせ、第3学区の普通科定員を増やす措置を併せて行っていたいただきたい。<br>各地域の普通科高校の特色化や魅力化を図るなど、徳島市内への集中緩和策を併せて実施する必要がある。                                                       |
| 21 | 遠距離通学が抑制され、様々な負担が軽減されている。また、各地域の活性化にもつながっている。                                                                                                                                                                                                                                                                 | 特になし。                                                                                                                                                                                    | 少子化が進むのなら、なおさら、地域の高校を維持するためにも、現行の通学区域制が望ましいと思う。現行制度の見直しや変更の検討は決定事項なのかもしれないが、急ぎすぎる感はない。何か急ぐ理由はあるのだろうか。                                                                                                                                                  |
| 22 | 徳島市内の高校に進学者が集中しないように配慮されている。徳島市から学区外へ進学者の数を少なくすること、子供の時間的・身体的負担と、保護者の経済的負担を増やさない制度となっている。                                                                                                                                                                                                                     | 時間的・身体的・経済的負担が増えないよう配慮されている一方、学区外からの流入率が設定されていることから、一部の生徒は、学区外への進学を余儀なくされている。                                                                                                            | 学校選択の自由の保障という考え方は理解できるが、負担が増える子供や保護者を増やさないよう、現状の学区制を維持すること、及び徳島市内普通科の学区外からの流入率8%の現状維持は必要であると考ええる。                                                                                                                                                      |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                                            | 課題である点                                                                                                                                              | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23 | 通学における時間的負担が少ない。一生懸命、文武両道に勤しんでいる生徒が多く、その生徒たちが、勉学と部活動を、時間的・身体的な負担があまりかからず両立できる。地元高校の育成・地域の活性化につながっている。高校も、中学校と同様、教育は学校だけで行われるものではなく、家庭や地域社会が教育の場として機能を発揮している。地域の学校と地域住民や保護者が、力を合わせて子供たちの学びや育ちを支援し、一体となった教育づくりが推進できる。                                                                               | 第3学区以外から徳島市内の高校へ進学する生徒により、徳島市の公立中学校から公立の普通科に進学した生徒のうち、約1割が希望に反して第3学区以外に位置する普通科に進学している。そのため、生徒にとっては、通学において、時間的・身体的な負担がかかっている。                        | 現行の通学区域制の継続を希望する。高校の再編・統合が進んでいる時代ではあるが、地元の子供たちが地元の高校に進学したいと思えるよう、各地域の普通科高校が、より一層、進学に力を入れ、特色化を図り、人となりが活動を支えた魅力と活力のある学校づくりを推進してほしい。                                                                                                                                                                |
| 24 | 徳島市の場合、公立普通科に進学した生徒のうち、約9割が希望した市内の普通科に進学しており、その多くは自宅から近い高校に通学できている。また、多くの場合、一般選抜をもって進路が決定しているため、生徒は余裕をもって新年度に備えることができている。さらに、地元の生徒が各地域にとどまらざることで、地域の活性化にもつながっている。                                                                                                                                 | 事前の進学希望調査では、徳島市内の普通科を希望していた生徒のうち、約1割が希望に反して市外の普通科に進学している。そのため、生徒や保護者に負担がかかっている。通学区域制が必要となった意見や要望をもう一度見詰め直し、理念の継続を考えていくことが大切だと思う。                    | 第3学区への流入率8%の継続と募集定員の増加を望む。また、各地域の普通科の特色化や魅力化を図り、卒業後の進路(大学進学や就職)を、より充実させる対策の早急な実施を期待する。生徒や保護者の信頼を得ることとなり、進学率は向上し、地域の活性化にもつながると思う。通学区域をいきなり廃止すると、中学生が混乱することが予想されるので、時間をかけて慎重に検討すべきである。                                                                                                             |
| 25 | 公立高校へ進学する生徒が90%を超える本県の特長な状況の中、学区制による一定のコントロール下にあることは、生徒の地元高校への進学のしやすさや、保護者の経済的負担軽減につながっている。また、地域の子供が地元高校に通うことで、将来的な地域の人材確保にもつながっている。不公平さを感じる地域や生徒・家庭があることは理解できるが、手放しの自由化は、不本意な区域外通学による生徒・家庭の負担の増大につながり、学校間格差を生む要因となり得るなど弊害が大きい。現行制度でも、県内全域を通学区域とする学校・学科があり、かつ、一定の流入率を設けることで、バランス良く区域外通学が可能となっている。 | 現行制度の維持が、それでもなおおベターであるとは考えられ、事実として100%自由で公平な状態とは言えない。また、学区の線引きを行政区の区切りで行っているため、致し方ないところではあるものの、わずかながら一部の地域にとっては、在住する市町村の高校よりも、隣接する学区の高校のほうが近い場合がある。 | 現状維持が望ましいと考える。万一、制度の緩和に向かうのであれば、少なくとも一定年数は募集定員を増加するなどして、学区内外双方の生徒・家庭にとって負担増とならないための措置が同時に必要であると考ええる。                                                                                                                                                                                             |
| 26 | 各地域にある地元の普通科高校の育成及び地域の活性化につながっている。                                                                                                                                                                                                                                                                | 大麻中学校や石井中学校については、通学距離を考慮して、徳島市内普通科への適切な流入量を認めてはどうか。                                                                                                 | 通学区域制の見直しについては慎重に行うべきであり、現在の学区外からの流入率(8%)は堅持してほしい。板野高校や名西高校等、徳島市周辺に位置する高校を育成してほしい。また、制度の検討に当たっては、城ノ内高校が中等教育学校に移行することを加味する必要がある。                                                                                                                                                                  |
| 27 | 現行の学区制の下、生徒の多くは自宅から近い普通科に通学している実態がある中、学区の拡大や廃止を行うと、今以上に希望に反して、他学区への進学を余儀なくされる生徒が増え、生徒・保護者にとって時間的・経済的な負担が増えると考えられる。そのため、現行の学区制を維持することをお願いする。                                                                                                                                                       | 他学区から第3学区への志願者が増えることにより、第3学区から他学区へ進学せざるを得ない遠距離通学者が増え、生徒・保護者にとって様々な負担の増大につながっている。また、徳島市立高校は、徳島市の税金を投入している以上、県立学校と同じ入試制度の運用は見直すべきだと思う。                | 現行制度は、様々な意見や要望を勘案して、県議会や委員会でも審議を重ね、県教育委員会において決定し、平成16年度入試より導入した経緯があり、その決定を尊重すべきである。今後、要望があるたぐいに見直しを繰り返されることも予想され、保護者としては、この問題に真剣に向き合えなくする。一部の委員だけでは、この問題にも問題があると考えられる。徳島市の一極集中を招かないように、各地域の高校の特色化、魅力化を図らないと人口減少・少子高齢化に対応できない。その結果、第1・第2学区の高校に生徒がとどまることができず、将来的に県外への高校進学者が増加し、徳島県の生徒数が減少すると考えられる。 |

|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                 | 課題である点                                                                                                                                           | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 28 | <p>多くの生徒が、自宅から近い徳島市内の高校に進学できている。学区制が廃止されると、自宅から遠方の高校へ行くざるを得ない生徒が増えるのは明らかであり、保護者も含めて、時間的・経済的な負担等が増加すると考えられる。また、私学が少ない本県の実情にあっても、現状の学区制があることにより、定員超過や定員割れの少ない進路決定ができている。この学区の拡大や廃止は、進路決定の混乱を招くのではないかと。県内の高校の実情では、希望進路を大きく変更せざるを得なかったり、不合格によって2次募集となった場合の影響が大きすぎると思う。</p> | <p>学区外から徳島市内の高校へ希望して進学してくる生徒が一定程度存在する結果、徳島市内の生徒がやむなく遠方の高校へ進学せざるを得ない状況になっており、時間的・経済的な負担等を余儀なくされている。高校への通学は毎日のことであるので、その影響は想像以上に大きいことを理解してほしい。</p> | <p>まずは見直しありきではなく、少なくとも現状の学区制を維持する意義をもう一度考えるべきであると思う。現行制度は、徳島市内への集中緩和など相応の意義をもって成立していると思われる。学区外から徳島市内へ進学する生徒にとっても、時間や経済的な負担が大きいのは同じことであり、生徒が進学したいと思うような地元の高校を、各地域で育成していく観点から改善策を考えるべきではないかと思う。</p>                                                                                                   |
| 29 | <p>通学区区域制は、円滑な進路決定に寄与するとともに、学ぶ環境の確保につながっている。また、各地域にある地元高校の育成及び地域の活性化にもつながっている。</p>                                                                                                                                                                                     | <p>現行の通学区区域制において導入されている、学校選択に幅を持たせるための諸制度は、一部の生徒・保護者の負担増大につながっている。</p>                                                                           | <p>現行の学区制を制定した時の理念を継続することが重要である。公立高校在籍率の高い都道府県の多くは学区制を採用している現状がある。また、徳島市立高校には徳島市内の生徒が入学できる定員を十分確保してもらいたい。制度の検討に当たっては、徳島市への集中を緩和し、地元高校の育成、地域の活性化につなげる観点が必要である。</p>                                                                                                                                   |
| 30 | <p>生徒にとって学ぶ環境の確保につながるとともに、円滑な進路決定に寄与している。また、地元高校の育成及び地域の活性化につながっている。</p>                                                                                                                                                                                               | <p>希望に反して他学区の普通科に進学せざるを得ない生徒がいる。その結果、遠距離通学や不本意入学により、時間的・身体的・経済的負担を強いられている。</p>                                                                   | <p>現行の学区制制定時の理念を継続することが重要である。なお、第3学区の流入率を引き上げる場合は、その生徒数に見合うよう、徳島市内普通科の募集定員を増やしてほしい。また、徳島市立高校については、徳島市内の生徒が入学できるよう、募集定員を十分確保してほしい。</p>                                                                                                                                                               |
| 31 | <p>徳島市に住む子供たちが徳島市内の普通科高校を希望し、進学している割合が9割という現状は評価できる。また、中学校での成績で合格の目安もある程度予測でき、第2次募集になる生徒も少なく、安定している制度であると思う。</p>                                                                                                                                                       | <p>第3学区への流入が、少子化とはいえ約100名(5校各20名程度)を数え、数字で見るとかなり多く感じる。自宅から徒歩、自転車等で通える普通科への進学を目指す徳島市内の子供たちのことを思うと、もっと他学区からの流入を少なくしてほしいと思う。</p>                    | <p>徳島市の立場から見れば、この改善の着手は、他学区からの一方的な要望によるものであり、徳島市の中学生にとつて何のメリットもなく、困惑でしかない。通学区区域の廃止など論外であり、何より、進路選択に関して子供たちの混乱が危惧される。学区制見直しは、本当にやめていただきたい。徳島は全体的に公共交通機関が脆弱である。運賃も高いし、便数や車両数も少なく、時間も限られ、大雨で遅延や遅延も多く、高校が大雨警報だけでは休校にならない点も相まって、遠距離通学は、ぜひとも避ける必要がある。なお、徳島市立高校については、徳島市在住の中学生にさらに広く門戸を広げるべきではないかと考える。</p> |
| 32 | <p>通学区区域制があるおかげで、子供たちは近くの学校へ通学し学んでいる。そのため、時間に対するゆとりが生まれ、身体的・経済的な負担が免れる。また、通学区区域制が機能していることにより、徳島市内は市内、市外はそれぞれの地域で、地元の人口が守られ、生徒の占有率が維持できている。更には、子供たちだけでなく、地域の保護者の連携にも結び付き、学校と地域が連携・協働する体制の構築が成されやすく、地域の活性化につながっている。</p>                                                  | <p>現行の通学区区域制では、学区外からの合格許容率が約1割となっている。このことは学校の水準を上げているが、その一方で、学区外に進学する生徒が生じてくる。結果的に、生徒・保護者の負担につながっている。</p>                                        | <p>各地域の未来と現状を守るためにも、現行の通学区区域制の理念を確認する必要がある。徳島市内の生徒数の水準の維持とともに、学区外の生徒数の水準の維持、意欲のある人材を地元に残すためにも、流入率ではできるだけ下げ方向で見直し必要がある。</p>                                                                                                                                                                          |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                | 課題である点                                                                                                                                                                    | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 33 | なし。                                                                                                                                                                                   | 行きたい学校に自由に行けるようにすることがよいと思う。                                                                                                                                               | 行きたい学校に自由に行けるようになるのはよいことと思うが、一方で、第3学区の通学区域内であった山間地域では、徳島市内への人口流動がおきかと思う。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 34 | 自宅から近い方が通学しやすく、保護者の負担も少ない。また地域の子どもたちを地域で育てることができる。                                                                                                                                    | 現行の通学区区域制において導入されている、学校選択に幅を持たせるための諸制度は、一部の生徒・保護者にとっては負担増大につながっていると思う。                                                                                                    | 現行の通学区区域制を制定した当時の理念の継続が重要である。また、この問題について、短期間で結論を出すのは大変無理があると思う。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 35 | 徳島市周辺で、地元には高校の立地しない中学校にとって、受検がしやすい制度である。                                                                                                                                              | 徳島市周辺で、地元には普通科高校が立地する自治体からは、徳島市内普通科高校への受検が大変困難である。地元には普通科高校があることが原因となり、学区内の生徒よりも高得点が必要となるなど受検が制限されることは、勉強や学校生活に対する生徒のやる気の低下につながるのではないかと思われる。                              | 県内全域を通学区域とし、また点数のみで区切るのではなく、各学校が勉学以外でもより一層の魅力向上を図る（現在も十分に尽力していると思うが）ことが大切だと思う。中学校側だけでなく、高等学校やその教員自体も、公平性等の意識改革が必要ではないかと思う。                                                                                                                                                                                                      |
| 36 | 地元高校の育成につながっていると思われる。通学区区域制が撤廃された場合、県下各地から徳島市内及びその周辺の普通科高校への進学割合が高くなり、県西部及び県南部の普通科高校がなくなるのではないかと心配される。徳島市内及びその周辺の生徒数が多いため、当該地域は入試激戦区になっている。しかし、通学区区域制があり、流入率が決められているため、少しは軽減されていると思う。 | 通学区区域制により、学区外と学区内の学力検査の合格得点にかなりの差があると聞いている。城ノ内高校の中等教育学校移行により、高校からの生徒募集が停止され、徳島市周辺では高校入試がさらに激戦になるのではないかと危惧している。                                                            | 通学区区域制の廃止には反対する。<br>流入率については変更（10%～15%程度）してもよいと考えられる。ただし、それに伴い徳島市内普通科の定員を増やしてほしい。現行は、地区ごとの中3生徒数や、進学希望者数により定員を決めていると聞くが、そのために各高校の生徒数が減少し、魅力ある学校づくりができていると考える。徳島市内の高校の場合、学年360名程度（全校1,000名以上）、郡部の高校であれば、学年280名程度（全校800名以上）が望ましいと考える。<br>城ノ内高校の中等教育学校移行に伴い、徳島市内の1校を県内全域を通学区域とする普通科高校にするなどの配慮を希望する。その場合、流入率は現状維持とし、徳島市内の定員は増加してほしい。 |
| 37 | 各地域の地元高校の育成が図られている。また、遠距離通学者の増加を抑制している。                                                                                                                                               | 現行の通学区区域制を評価しており、特に課題はない。                                                                                                                                                 | 現行制度の継続をお願いしたい。特色ある学校づくりに取り組み、地元高校の育成をさらに進めてほしい。                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 38 | 現行のシステム自体が古いため、現状との適合性に違和感を感じる。大学等への進学を見据えて、通学区域を第1から第3の3つの学区に仕分けることで、希望する進路の競合をさけることができる点については評価できる。                                                                                 | 学区外と学区内の学力検査の合格得点に差があり、学区外の意欲ある生徒の進学の妨げ要因になっていると思われる。可能性を持った子供は学区外であっても、希望する高校に進学させるべきである。現在の人口増減に対応していない通学区区域制であることは、県民もわかっている。全国でも通学区区域を廃止している都道府県もあるので、色々と考えてみれば良いと思う。 | 地域に残す高校（地域創生）と少子化を考え、徳島市一極ではなく、各学区や地方の拠点になる高校を設けるべきである。また、高校から進学・就職を考慮しての学科やコースを設ける必要がある。地域に残ってもらうようにしなければ、少子化が進行し、県全体に子供がいなくなる。                                                                                                                                                                                                |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                              | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                              | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 39 | 通学区域制により、生徒の各地域への分散が期待できるとともに、地域の活性化にもつながる。また、高校によっては、学区外から進学してくる意欲のある生徒を一定数、確保することができ、他の生徒との相乗効果も期待できる。                                                                                                                            | 高校の数や生徒を取り巻く環境等、ハード面、ソフト面で地域格差が生じている。また、生徒の学力のレベル差が大きいのと思われる。そもそも、生徒は単独に行きたい高校に行くことができず、進路の選択肢からも除外している。                                                                                                                                            | 通学区域制には、メリットもデメリットもあると考えられる。具体的な改善策は今後の有識者会議に委ねるが、在り方としては、①教育現場が混乱しない、②生徒集中による地域格差・過疎化が進まない、③第1希望校に行けない場合の受血や第2次募集の充実、④高校の数が少ない地域における選択肢の拡大が必要だと考える。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 40 | 現在、高校は通学区域である地元とのつながりを大切に学習活動を展開している。地域おこしや地域との交流を通して、自分たちの住む地域の特色を知り、課題を見つけて解決をさぐったり、地域と密着したボランティア参加がふるさとを大切にする気持ちを育成し、地域創生をすすめていく大切な土壌になっていると思う。<br>また、通学区域制があることで、地元の普通科高校へ進学しやすくなり、自宅から通いやすく、交通費の負担が少ない、受験競争・過熱の緩和などが評価できると考える。 | 地域によっては、意欲のある子供が徳島市内の高校を希望する時、学区外校での選抜になり、狭き門になっていることが問題といわれているが、そもそも、意欲のある子供にとつて進学したいと思える高校が学区内になく地域があることが課題だと思う。また、地元の高校から卒業後の進路が確保されることが課題だと感じる。<br>卒業後の進路がすべての学校において平等に確保されていると仮定した場合は、特色ある部活動や学校ごとの活動を希望して行きたいと願う子供たちにとっては、通学区域制は大きな妨げであるといえる。 | 有識者会議では、結論ありきの議論、調査をするのではなく、子供たちが将来に希望を持って学業や体験活動に励めることを大切に考え、多角的な意見、自由闊達な意見が阻害されることのない会議であることを期待する。通学区域を撤廃したり変更した他県の調査は必ず実施してほしい。<br>通学区域を撤廃することで予測されるメリット、デメリットはおよそで尽くされていると思われ、根底には徳島のふるさとに、果たして若者が生き生きと就職できる環境が整って就いているのか、また現時点で働いている我々大人が満足して就いているのか、という問題があるのではないかと思う。<br>通学区域の撤廃によって、地元高校に通うことが、また徳島市以外の高校に通うことが恥ずかしいことになってしまいうただけはなんとかしても避けたい点である。<br>子供たちが将来グローバルな活躍をすることは我々保護者の夢ではあるが、徳島から世界に飛び出すだけでなく、世界の規模の勝負を徳島で展開してほしいものである。徳島で働く若者が自信と誇りを持てるよう、願っている。 |
| 41 | 地域別になることにより、それぞれの高校で、友達関係、クラブ活動などが非常にまとまりやすく、保護者として安心感がある。                                                                                                                                                                          | 学校の選択肢が減ることにより、個々の夢や希望に沿った学校選択肢ができていくのかという心配がある。<br>また、山間地域の高校では、試験の点はなくとも受かると捉えている人がたくさんいる。それが理由で、中学3年生になっても勉強しなくてもよいと考えている人もいるとのことであり、学力向上の面で問題があると思う。                                                                                            | もう少し、各学校に特色をつけた学科を取り入れてほしい。特に、地域に根付いた産業に沿ったものを期待する。それは、少人数でのクラスにより可能であると思う。今後、ますます進行する少子化、過疎化を考慮し、今までのクラス人数の在り方を根本から変えることを提案する。そうすることで、小規模の学校、クラスでも、輝くものができると思う。時代を先読みした学科を取り入れることにより、個々の能力が発揮でき、これからの社会に必要な人材育成につながると思う。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 42 | 現行の通学区域制により、他学区へ進学するハードルは上がっているが、意欲ある人材が他学区へ多く流出してしまうということの抑止にはなっていると思う。地元の活性化という側面において、ある一定の評価はできると考える。                                                                                                                            | 学区外からの受験には不公平という課題はある。ただし、参議院議員選挙の一票の格差のように、不公平感だけに特化してしまうと別の問題が生じるのではないかと思われる。                                                                                                                                                                     | 通学区域制を変更すると、徳島市内の高校に入学希望者が集中し、地方の高校が定員割れしてしまうことが懸念される。地方の高校にも、その地域の特性を生かしたような学科や専門的な技術を学べる学科など、魅力ある学校づくりを検討していただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 43 | 基本的に学区区内で高校を選択することとなるため、進路目標を絞りやすい制度である。また、徳島市に生徒が集中して過当競争となることを防ぐ一方、地域を担う人材の育成に寄与している。                                                                                                                                             | 生徒の進路希望に添えない場合がある。                                                                                                                                                                                                                                  | 改善の検討に当たっては、生徒や家族の希望、地域社会の維持等のバランスに配慮することが重要と考える。学区制を変更した場合に及ぼす影響や効果がわからないため、数年後の見通しを立て、一定の地域や学校・学科でモデル的に変更を実施し、その影響・効果を十分に検証すべきである。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

|    | 評価できる点                                                                                                                                                  | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                      | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 44 | 徳島市への一極集中を緩和し、地元高校の育成を図るために一定の効果をあげている。                                                                                                                 | 様々な状況に配慮して特例が設けられていることで、逆に不公平感を持たれてしまっている。                                                                                                                                                                                                                  | 徳島市中心部の学校に一極集中とならないよう、現行のよな通学区域制は必要であると思う。大幅な変更は困難であると思われるが、できるだけ多くの人にとって公平な改善策となることを望んでいる。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 45 | 通学区域外への生徒の流出を少なくすることによって、地元を大切にすることを高めるとともに、地域に貢献する人材育成にもなっていると考ええる。                                                                                    | 通学区域外の生徒は、学校の特色を踏まえて希望しているも、競争率が高くてなかなか受検できない状況である。生徒の個性を重視した教育を展開するという観点からは、通学区の選択範囲を狭めていると考える。                                                                                                                                                            | 本県は私立高校が少ないため、進学の選択範囲が狭くなっている。そのため、県内全域を通学区とする公立高校を増やしたり、通学区の見直しをしたりする等、生徒の高校選択の範囲を広げることが望ましいと考える。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 46 | 地元の普通科高校が生徒の獲得に向けて、それぞれの特色を生かそうと努力している。                                                                                                                 | 第3学区の普通科は部活動等に特色があって、学区外からの希望が多いのに対し、学区外からの流入率が低すぎると感じる。                                                                                                                                                                                                    | 少子化に伴い、将来的には学区制は廃止したほうが良いと思う。それにもなっって寮の設置も必要だと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 47 | 地域で育ち、地域で学ぶことで郷土愛が生まれ、将来、地域を盛り上げてくれる人材が生まれる。また、高校に進学したいと望む生徒及びその保護者が、遠距離通学等の経済的負担を理由として進学をあきらめてしまっていることが少なくなる。                                          | 学校の少ない地域等では進路の選択肢が狭まり、地域間の不公平性は少なからずあると思う。学区間の流入率が小さいと捉えている方もいると思われる。                                                                                                                                                                                       | 通学区域制の良い点、改善すべき点を考慮し、子供たちが個々に有する能力を十分発揮できるよう、検討を進めてほしい。                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 48 | 第1学区では、学区内の普通科高校や専門高校に進学するの一般的な進路状況であり、通学においても自転車やバス・汽車等を利用し、比較的通学時間が短く抑えられている。また、中学校からの友人が同じ高校へ多く進学することから、高校生活が始まってからも友人関係等で困ることが少ないと思われる。             | 第1学区における通学区域内の高校の選択肢はまだまだ多い方だと思うが、勉強やスポーツにおいて更なるレベルアップを考えた時に、力を入れている高校が徳島市内に多くあり、第1学区内の選択肢だけでは不十分である。現状でも、いくつかの学区外校や全県を通学区とする学校・学科はあるが、流入率が低いため、学区外からの入学試験において、より高得点が必要であり、不公平感がある。徳島県においては私立高校の数も少なく、基本的に県立高校への進学傾向が高いため、入試に失敗することを考慮すると、学区外からの進学にはリスクを伴う。 | 高校受検生の保護者としては、生徒が望む高校へ進学できる県内全域を1つの学区とすることが理想である。しかし、全県一区となれば、進路希望が徳島市内へ偏り、海部地域や三好地域の生徒流出と少子化により、周辺部において高校の統廃合が進むことも考えられ、県の地形や交通網等の現状と高校の維持、生徒の確保を考えれば、現状の通学区域制は維持すべきと考える。<br>一方、生徒の学力や能力を伸ばすため、学区外からの流入率を現状よりも高くし、第1学区から徳島市内の高校への進学者数を増やすことは検討してほしい。加えて、各学区内それぞれの高校の魅力や特色を増し、どの学区でも同じような学力やスポーツ競技力等が得られるような体制づくりを行い、各学区内で進学しようと思える取組も必要だと思う。 |
| 49 | 地元高校へ進学しやすく、保護者の経済的負担、子供の通学時間の負担が軽減される。                                                                                                                 | 学区制の影響で選択肢に限られるため、希望通りの高校に進学できないことがある。また、同じ高校でも学区内と学区外の生徒では合格できる得点が極端に違っている。                                                                                                                                                                                | 各高校の特色づくりの一層の充実が必要だと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 50 | 通学区内には、地元自治体や学区内の他の自治体に高校が多くあり、普通科志望の生徒は、現行の通学区域制においても複数の選択肢の中から進路を選択できており、現段階では評価できる。また、生徒や保護者にとっても、一部を除き、ほぼ確実に地元高校へ進学できるため、受検や通学に係る負担も少なく、安心できる制度である。 | 学区外の高校へ進学を希望する生徒については、地域間で多少の不公平感はあるが、現行の通学区域制への課題は特に感じていない。                                                                                                                                                                                                | 将来的には通学区域制の撤廃へと進んでいくと思うが、現状で撤廃することは混乱を招くと思われる。中途半端に一部地域の通学区域を見直すことは、結局は新たな不公平感を招くことにつながるため、やめた方がよい。<br>この問題は、教育分野だけでなく、地域、自治体などあらゆる方面に影響を与えるため、慎重に検討を進めるべきである。県内の通学状況の不便さも改善し、地域間での格差をなくし、皆が納得、また妥協できる施策をお願いしたい。                                                                                                                              |



|    | 評価できる点                                                                                                                               | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 51 | 通学距離が近く、生徒の時間的な負担が減る。また、地元高校に通学することで地域との結びつきが強くなり、地元を大切にしている生徒育成の手だての一つになっている。                                                       | 学区外から受検する場合、入学可能な点数の違いにより不公平感がある。また、第1・第2学区が広く、同じ学区内でありながら、通学することが困難な高校がある。                                                                                                                                                                                                                                     | 学区の見直しをして、通学可能な学区に再編すべきである。第3学区の流入率を見直し、学区内外の点数差を小さくしてほしい。また、第3学区に、県内全域を通学地域とする普通科高校、もしくは普通科を設定していただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 52 | 地元高校に進学することによって、あまり友達付き合いが上手でない子供にとっても、小・中と学校生活の中で築いてきた友達と一緒に高校生活を送ることができる。また、遠距離通学を抑止するとともに、受験競争が緩和されている。                           | 少子化の進行に伴い、切磋琢磨が失われ、受験競争があまり行われていないように思われる。一方、学区外に位置する学校を受検する場合には、少し競争率が高くなってしまふ。                                                                                                                                                                                                                                | 通学区域制を改善するに当たっては、徳島市内の学校に希望者が集中しないよう配慮する必要がある。また、通学に不便な学校は廃止もしくは統廃合を進める一方、専門職に特化した学校・学科の設置を提案する。                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 53 | 評価できる点はない。総合選抜制度からの負の遺産である。強いて言えば、各学区の中学校において、高校入試の出願者ができるだけ各高校の募集定員の中に収まるよう調整を行っているが、その調整範囲が少なくてすむということが挙げられる。ただし、これが良いことだとは思っていない。 | 進学したいと思う高校が近くにあって、学区内であれば合格できる学力でありながら、学区外という理由だけでハードルが上がりがち、やむを得ず他の遠い高校に行かざるを得ない状況が出てくる。<br>高校が多い徳島市内は選択肢も多く、学区外からの流入は競争率が上がるので否定的な意見があると思われるが、地方では高校の選択肢も少なく、意欲向上につながらない。徳島市が属する第3学区は一極集中するとの意見があるが、現行の通学区域制は、単純に、徳島市の生徒を優遇しているかと思えない。高校は義務教育ではないので、通学区域があること自体が問題である。                                        | 通学区域制の廃止及び募集定員の見直しを提案する。通学区域制の廃止により遠距離通学の増加が考えられるため、各学校ではなく一定地域毎（自転車通学圏内）に寮を設け、どの学校に対しても進学しやすくする。徳島市内への一極集中の懸念に対しては、募集定員の減少数を地方の高校ではできるだけ少なくすることで対応する。<br>入学者選抜において前期後期入試を実施する。徳島県は他県に比べて私立高校が少ないので、公立高校の一般入試を前期入試、募集定員の10%程度を後期入試による選抜とし、子供たちの選択の幅を広げるとともに、各中学校の進路調整の負担を軽減する。結果、前期試験では必然的に競争倍率が上がるため、県全体の学力向上につながる。                                                     |
| 54 | 通学区域内の地域社会が学校教育に関わりやすく、長い歴史的経緯の中で、地域社会と学校との強い結びつきが培われている。(いじめ等の問題が発生したときに活用できる。)                                                     | 通学区域制により通学できる学校が1校しかない場合、学校の選択ができないといった問題が生じる。子供たちは、学校の選択等の手段を通じて自主性や個性を伸ばし、責任感をもつようになるのではないかと。<br>通学区域制のために、高校は特色を出さずとも生徒が入学してくるので、個別の特色を出していない。通学区域制を廃止すると、高校も特色を出すよう努力すると思われる。                                                                                                                               | 通学区域制を廃止することで、生徒の選択する範囲が広がり、将来の夢へ近づくことが可能になると思われる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 55 | 特定の学校や地域に生徒が集中することを防止し、県立高校の適度な競争、発展を促してきたと考えられている。また、一定の通学区域を指定することで、過度な流入超過を抑制し、遠距離通学に伴う身体的・経済的負担の軽減や通学時ににおける危険防止が図られてきたと思われる。     | 課題は特になくはないと思う。<br>第3学区について、徳島市周辺部の生徒が徳島市内に行きたい高校があっても、行けない場合があることが問題視されているが、一定の学区外定員を有しており、入学機会が完全に奪われているわけではない。その定員数がいくらかが適正かという議論はあるかも知れないが、後は本人の努力次第であると思う。狭き門を目指して努力する生徒の意思も大切にしなければならぬと思う。<br>そもそも、徳島市周辺以外からの生徒は交通上の問題もあり、行きたい学校が徳島市内にあっても行けない場合がある。どこまでが公平な制度であるのかという議論が必要である。徳島市周辺部だけ優遇されるのは、どうかと思う人もいる。 | 学区制は廃止すべきではない。特定の学校に、学力やスポーツ分野で意欲的な生徒が集中することになり、学区によっては、当該分野のレベルが下がることがある可能性がある。特に第3学区周辺の学校は、さらに生徒が集まらない悪循環を招き、学校の衰退、ひいては地域の衰退を招く可能性もある。現行制度の下でも、学区外から一定の入学者があり、全県を対象とした学校・学科も設けられており、十分であると思う。少子化の進行により、生徒数はさらに減少するので、いづれは学区制も維持できないレベルになると思われるが、学区制の廃止を訴える際には、自分たちの地域の高校の魅力の低下、ひいては廃校を早めることになるかもしれないことをよく考えるべきである。<br>人口減少の速度は地域によって異なるので、学区内での統廃合や特色ある学校づくりを進めるべきである。 |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                        | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                                 | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 56 | 地元の生徒が、地元の高校に通いやすい制度である。                                                                                                                                                                                                                                      | 本当に行きたい学校が区域外にあった場合、通学区域制による様々な制限があり、受験ににくい状況になっている。                                                                                                                                                                                                                   | 能力、学力のある生徒が、通いたいと思っても流入率があるため、あきらめざるを得ない状況がある。しかし、学区制の廃止または流入率を変更することで、人気のある学校に生徒が集申し、郡部の学校は少子化の影響もあり、定員割れも予想される。そのため、郡部の学校には、魅力的で特色ある学科を設置し、また、校舎改修等の改善に取り組むなど、子どもたちが進路、進学、未来へ、夢と希望がもてる教育環境の改善を求める。                                                    |
| 57 | 県西部はへき地も多いため、各中学校で地元高校への進学を優先して考え、指導していただければ、各家庭の経済的負担の軽減につながっていると思う。                                                                                                                                                                                         | 学区外への進学を希望した場合、学区内よりも高い学力等が必要とされ、当該校への進学を断念している生徒の存在が見受けられる。                                                                                                                                                                                                           | 県内全域を通学区域とすることは、子供たちの競い合う姿勢を育てることにつながり、良いことであると思うが、徳島県の通学手段は乏しく、通学区域の見直しを行うことと同時に、そうした対応も考えていただきたいと願っている。また、少子化が進行する現状をもう少し大きく取り上げ、公共交通機関の整備など、住みやすい町づくりへ力を注いでいただきたいと思う。                                                                                |
| 58 | 第2学区に位置する本校の周辺地域では、現状について、特に困った点はない。また、そういう話も耳にしていない。そういう意味で、現行制度はバランスのとれた制度であり、周知もできていると思われる。                                                                                                                                                                | 徳島市周辺では、希望する学校への制限があり、受験が過度な負担となっているという話を耳にする。<br>現在、少子化の影響もあり、各中学校の規模が縮小している。小集団であることは、様々な活動ができないといったマイナス面に働く場合もある。高校も同様に規模が縮小することにより、本来の機能が果たせなかったり、存続が危ぶまれていると聞く。地域における学校の減少は、進路選択の幅が狭まることにつながり、遠方の学校への進学は、通学時間の長さや、経済的負担等でマイナス面が考えられる。                             | 行政には、通学区域制よりも、少子化や人口減少の根本的な問題への解決策を考えてほしい。また、県内全域を通学区域とすることは、郡部の学校にとっては存続の問題になる。人口減少の悪循環となる。まずは、遠隔地の学校を魅力のある学校とし、都市部からでも若者が通いたいという学校に改善してから通学区域制の問題に取り組んでほしい。流入率を引き上げるにしても、手立て無く行えば、郡部から学校はなくなってしまうと思う。                                                 |
| 59 | 現行の通学区域制は、普通科高校に進学したい生徒にとつては、ほぼ地元または近隣の高校に進学することができるので、本人・保護者とも入試に対する負担は小さい。また、多くの生徒は自宅から通学することができ、精神面・生活面で安定した高校生活を送ることができる。そして地元の中学生が、地元高校に進学し、高校生活を送ることにより、将来的には地元を支える人材として成長することが期待できる。なお、学力やスポーツで特に優れた生徒や保護者はこの限りではないと思うが、多くの保護者は、地元高校へ進学してほしいと考えていると思う。 | 近隣に特色ある普通科高校があるため、現制度についてはそれほど困難さを感じていない。しかし、現行の通学区域制は、子供たちが行きたい高校へ進学したいと思っても、自分の生まれ育った地域によって制限があり、課題であると捉えている。普通科に通学区域が設定されており、子供たちの自由な学校選択が保障されていないことは明らかである。しかしながら、通学区域制の廃止は通学区域の拡大を意味し、進学にかかる経済的負担の増大が予想される。そのため、家庭の経済格差が子供の進路選択に影響を及ぼすことが懸念され、それについても大きな課題であると思う。 | 通学区域制廃止について全国的な傾向はあるにせよ、本県の地域的事情を踏まえた上で、今の制度があると考え。時代も変わり、少子化は進んでいるが、現行制度がどのような趣旨で構築されたのか、もう一度議論していただき、改善が必要であるにせよ、慎重に検討すべき課題だと考える。通学区域制の早期廃止に安易に賛成するものではないが、改善するならば、交通事情など通学環境の変化や、子供の要望をかなえたいとする保護者の意識の変化を踏まえ、学力やスポーツの分野で、進路の選択肢が拡大するようにすることが望ましいと思う。 |

|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                        | 課題である点                                                                | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                    |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 60 | <p>県西部の生徒は、学力と通学距離を踏まえて、基本的には県西部の高校に進学し、学区外に進学する生徒は一握りである。そのため、現行の通学区区域制に対しての評価点や課題点をあまり意識したことがなく、一保護者としてもわかりかねる。そこで、本県の現行制度がどのような内容か、他県等と比較してどのような特徴があるか、このタイミングで見直しを検討するに至ったのは少子化の他に要因はなかったのか、今回、そのような点についてお知らせいただければ、保護者間で議論し、様々な意見を示すことができるのではないかと思う。</p> | <p>(記載事項なし)</p>                                                       | <p>現在、少子化の影響により、中学校での集団競技の部活動が成立しなくなっていると同時に、高校においてもその影響が現れているようである。今回の見直しにおいては、昨今問題視されるようになった部活動の在り方や地域的特色も踏まえて、議論していただきたい。</p>                               |
| 61 | <p>少子高齢化が急速に進行する県西部から見た場合、徳島市内の高校へ子供たちが集中することを避け、県西部の高校にも一定数の生徒数が確保されているということにおいては効果があると考えている。</p>                                                                                                                                                            | <p>徳島市内普通科高校へ進学を希望する生徒にとっては、学区の関係で受検を断念せざるをえない状況になることが課題であると考ええる。</p> | <p>学区を撤廃した場合、県西部のほとんどの学校は、生徒数が激減するのではないかと危惧する。全県的な視野に立つて、今ある全ての公立高校を残すことを考えれば、学区を設定することは必要であると思う。その上で、流入率の変更や全県一区で受検できる学校・学科の増設を提案する。</p>                      |
| 62 | <p>通学距離が比較的短く、事故や事件に巻き込まれる可能性は低い。また、地域との交流ができ、地域に根付いた教育が推進される。</p>                                                                                                                                                                                            | <p>子供が自分の個性に合った学校で学ぶことができない。また、部活動等の競技力アップがしにくいと思われる。</p>             | <p>通学区区域制の改善策については、いずれの場合にもメリットとデメリットがある。各高校には魅力ある学校経営をしていただき、子供たちがどの学校に行っても充実した学校生活を送れるように尽力していただきたい。</p>                                                     |
| 63 | <p>へき地校では、どこの高校へ進学するにしても距離があるので、通学区区域についてはあまり考えたことがないというのが現状である。しかし、高校を自由に選べることになると、地域の高校がある程度守り、育てられなくなるという意味では、現行の通学区区域制は評価できると思う。</p>                                                                                                                      | <p>同じ高校へ進学するのに、地域によって格差が生じる制度であることには、子どもを持つ保護者として矛盾を感じる。</p>          | <p>高校や地域それぞれが持つ良さや特徴を生かし、魅力ある高校をつくることで、バランス良く進学できるのが理想である。しかし、少子化の進む中、子どもが行きたい、保護者が行かせたいと思う高校は偏ってくると思う。そのため、現行の通学区区域制を維持するか、流入率を少し下げるとの改善が望ましいのではないかと思う。</p>   |
| 64 | <p>学区制があることによって、普通科高校に進学する場合に、ある程度、規制(しばり)を設けることができ、その区域内の普通科の定員を確保しやすくなっている。</p>                                                                                                                                                                             | <p>生徒の住所や学校の所在地が各区域の境界周辺にある場合、進路決定時に不公平感が生じる可能性がある。</p>               | <p>学区制の見直しも大切だが、毎年度員割れをする、郡部に位置する高校をいかに育成するかを官民あげて議論し、経済的に支援していくことを優先すべきと考える。その地域にあった個性あふれる、地元の中学生在が通いたくなるような魅力的な高校を作ってほしい。</p>                                |
| 65 | <p>地域によって将来の地元を担う人材が育成される。</p>                                                                                                                                                                                                                                | <p>地域によっては、子育て世代の定住促進の阻害要因となっている。</p>                                 | <p>県内全域を通学区とした場合、地域にとつて将来の地元を担う人材が流出してしまう可能性が大きくなると思われる。しかしながら、現行制度の下では進路選択の幅が狭く、希望する進路を選択できるのは一部の生徒であるため、通学区間の流入率を緩和することが、バランスを保ちつつも進路選択の幅を広げることになると思われる。</p> |



|    | 評価できる点                                                                                                         | 課題である点                                                                                                                        | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 66 | 生徒が居住する地域と高校とがタイアップして活動したりすることにより、地域への愛着を深めることができる。<br>生徒は、生活に過度な負担がかかることなく通学することができる。(通学時間は、片道1時間以内が望ましいと思う。) | 生徒の選択肢が制限され、将来への可能性が狭められていると思われる。進学や就職を見据える際、生徒自身で考え選ぶことは重要だと思う。学区制があることで、希望の進路選択を断念しなければいけない状況は望ましくない。                       | 大阪府で通学区域制を撤廃した際、通学経路の沿線(電車やバスといった公共交通機関)の関係で、生徒の流れは、さほど変わらなかったと聞いたことがある。(徳島県と大阪府では、人口や公共交通機関の状況がまったく違うので、あまり参考にならないとは思う。)全生徒が、夢を持って高校に通うことができることを期待する。                                                                                                               |
| 67 | 少子化・過疎化の進む地域においては、子供の流出を抑制し、地域の活性化(経済効果等)につながっていると思う。                                                          | 学区外から受検する場合、学区内の子供に比べるとかなりハードルが高く、基礎学力テストで高得点が必要であると感じている。学区内に引っ越しをして受検をするという話を聞いたことがある。その場合は、家族への負担も大きくなる。                   | これからは少子化がさらに進み、どの高校でも生徒確保が困難になることは明らかである。そのため、那賀高校森林クリエイト科のように、他には無く、その地域の特性を生かした学科を設け、他府県から生徒を呼び込む必要があると思う。例えば、2020年東京オリンピック新種目のサーフィンの注目されていることから、海部高校にサーフィン部を設けるのも一つの案だと思う。                                                                                        |
| 68 | 進路選択の際、地域が限定されていることから志望校を決定しやすい。また、特定の高校に対し進学希望者が集中することを防いでいる。                                                 | 地元には高校が1校しかなく、家庭の経済的理由などから、生徒が自由に希望の学校や学科を選択することが難しい。県西部や県南部では、公共交通機関の利用が不便であるため、通学区域内に学校数はあっても、現実的には通学が困難であり、志望校選択の幅が狭まっている。 | 特に県南部や県西部、山間部に位置する学校では、その地域に特化した学科を設置し、卒業後も地域産業等で活躍できる人材の育成をめざす。また、人口の少ない地域からの生徒流失は防ぐ一方、人口が多い地域からの流入は可能にする。(第1・第2学区から第3学区への入学は原則認めないが、第3学区から第1・第2学区への入学は認める等)区域内での特別進学制度を設ける。部活動に特化した特色選抜だけでなく、学業等における進学枠を設置する。少子化に伴い、通学区域制を撤廃しても、部活動での進学を除き、生徒の集中はおこなわないのではないかと考える。 |
| 69 | 地域との連携がとりやすい。また、過疎地域においては、都市部への生徒流出をある程度押さえる役割を果たしていると考えられる。                                                   | 学区が決められているので、徳島市周辺の生徒の中には、近隣に位置する希望の学校へ進学できない場合がある。                                                                           | 非常に難しい問題であると思う。通学区域制を廃止すると学校間格差が生まれる。その一方で、廃止した場合には、生徒と保護者が真剣に進路のことについて話し合えると思う。また、都市部と過疎地域によって抱える問題の違いもある。                                                                                                                                                          |
| 70 | 県西部や県南部の生徒数の減少に対し、地元高校の生徒の減少幅の抑制が図られている。                                                                       | 生徒の競争力の低下や、高校の選択肢の減少が課題である。                                                                                                   | 通学区域を全面的に廃止するのではなく、流入率を緩和することが望ましい。また、現行の通学区域制のなかで、生徒の選択肢が増えるよう、学科の新設を希望する。                                                                                                                                                                                          |
| 71 | 住み慣れた地域の学校に進学することは、保護者として安心感がある。                                                                               | 将来の夢や希望をかなえるための高校選別に、制限があることは大きな課題である。                                                                                        | 各高校において細分化したカリキュラムや専攻を設けることにより、生徒の選択肢を増やすことが望ましいと思う。                                                                                                                                                                                                                 |
| 72 | 特になし。                                                                                                          | 特になし。                                                                                                                         | 子供たちが行きたい高校に行けることが一番望ましい。ただし、県西部では、生徒が流出する可能性も高くなるように思うが、交通事情もあり、影響は読み切れない。一方、徳島市周辺の生徒の動きは大きく変化するようにも思う。生徒が一極集中するようであれば、現行制度のままでもよいと思う。                                                                                                                              |



|    | 評価できる点                                                                                                                                      | 課題である点                                                                                                                                             | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 73 | 特になし。                                                                                                                                       | 特になし。                                                                                                                                              | 一部の子どもたちにとって不利にならないよう、制度の改善をお願いしたい。                                                                                                                                                                        |
| 74 | 県西部や県南部の高校にも生徒が集まりやすい。また、願書を出す段階で、ある程度調整できると思われるため、不合格となる者が少なくなる。                                                                           | 学区外から徳島市内の高校などの入学を希望する場合は、流入率があり受け入れられる生徒数が限られているため、入学するためのハードルが高くなる。                                                                              | 通学区域を撤廃した場合、生徒がより徳島県中央部に集中し、県西部や県南部の高校の生徒が減少すると思われる。そのため、通学区域を設ける必要はあると考えている。                                                                                                                              |
| 75 | 徳島市内の旧総合選抜校への、学区外から8%と決められた流入率によって、志願者の一極集中を抑止している。しかし、このことは徳島市内の志願者や保護者、中学校にとって評価できることだと考えるが、一方で周辺市町に住む者にとっては課題となっている。                     | 徳島県は他県に比べて私立高校が少なく、公立高校の競争率も極端に低い。しかし、旧総合選抜校への学区外からの志願者の競争率や合格点数は非常に高くなっており、地域間の公平性が保障されていない。現行制度は、生徒の学校選択の自由や、本当に進みたい進路を保障していない。                  | 通学区域制に関して、流入率を高くしたり、県内全域を通学区域とする学校を増やしたり、通学区域を見直したりしても、すぐにまた行き詰まると予想され、不平等感は解消されないと思う。誰もが平等にと考えるなら、学区制を廃止し、誰もがどこからでも行きたい学校を受検できるようにすることが、県民から求められている改革ではないか。                                               |
| 76 | 県西部では、過疎化に伴う生徒数の減少により、徳島市内の生徒との学力差が気になるところである。現行の通学区域制については、学力格差の受皿的側面を持つ高校はあると思われるが、反面、徳島市内に準ずる教育水準を求めようとすると生徒には、高校選択の余地がないという状況にあると考えられる。 | 平等な教育水準が県内の生徒に与えられているのかという不安を感じる。通学区域制があることにより、同じ学力でも、徳島市内の学校を受検できない生徒がいるということは、平等な教育だとは言えないのではないか。住む地域で受検校が制限されるのは、意欲ある生徒の将来を損なう可能性があるのではないかと考える。 | 今後、少子化が進行していく中で、本県の教育水準を確保し、人材を育てるためには、通学区域制の廃止を含め、各高校の特色を生かした教育の下に、自由に選択できる権利を生徒に与えるべきであると考ええる。進学志向の高い生徒が多いと考えられるため、選抜クラスを県内全ての高校に配置しつつ、県内生徒の学力の分布を加味した募集定員の設定や、学力別の普通科の設置などが考えられる。反面、学校の序列化を生む可能性が懸念される。 |
| 77 | 特になし。                                                                                                                                       | 第1・第2学区の生徒が第3学区の高校を希望した場合、進路選択の幅が狭められている。                                                                                                          | 生徒が行きたい高校に行けるような制度への改善を希望するとともに、各高校の資質向上を期待する。                                                                                                                                                             |
| 78 | 特になし。                                                                                                                                       | 鳴門市をはじめ板野町や上板野町など徳島市周辺の地域では、旧総合選抜校に進学する場合に学区外扱いになることに不公平感をもっていると思われる。                                                                              | 学区制を取り除き、フリーにした場合、どのようなメリットとデメリットがあるのか、わかりやすい情報を知りたい。その上で考えていくべき問題だと思う。また、各高校は、特色ある学校づくりに励んでいただきたい。                                                                                                        |
| 79 | 少子化に伴い、高校の生徒数が減少する中、通学区域制は、入学志願者数について想定でき、ある程度の生徒数を確保できることから、高校運営の観点からは評価できると思われる。また、生徒にとっては、通学区内の高校への進学は負担の軽減につながる。                        | 生徒の視点からすると、進路についての選択肢が狭められと思われる。このことは、生徒の可能性を潰してしまうことになるのではないかとと思われる。                                                                              | 保護者からすると、生徒自身が選んだ高校へ行かせたいと思うのは当然のことと思う。県内全域を通学区とし、自由に高校を選ぶことができる制度が望ましいと考える。                                                                                                                               |

## 通学区域制に対する市町村からの要望

(第 1 回有識者会議開催以降に提出された要望)

○徳島市議会が、県教育委員会教育長宛てに要望書を提出(平成30年9月)

### 【内容】

現行の通学区域制は、通学区域外からの合格許容率を設定したり、普通科高校に県内全域を通学区域とする専門学科を併設するなど、学校選択に幅を持たせるとともに、遠距離通学者数の抑制や学校間格差の拡大防止等に一定の成果を上げていることから、有識者会議における検討に当たっては、次のことを要望する。

- ・公立高校全日制普通科における通学区域について、基本的には現行の3通学区及び第3学区への流入率を維持すること。
- ・今後の通学区域のあり方については、さまざまな立場からの意見を十分に汲み取り、遠距離通学者の増加等、生徒・保護者の負担増大につながるものとならないようにすること。





## 通学区域制に関する聞き取り調査結果（概要版）

この資料は、通学区域制に関して県内 24 市町村教育委員会から頂いた御意見（別添）を整理したものです。

### 【評価できる点】

- ・生徒にとって地元高校へ進学しやすい。
- ・地元高校の育成・存続につながっている（地域づくりに役立っている）。
- ・保護者にとって経済的負担が軽減される。
- ・徳島市内普通科高校への過度な一極集中を緩和し、学校間格差の拡大を防いでいる。
- ・生徒は学区内外の複数の高校から進路選択が可能である。
- ・地域にとって将来の地元を担う人材が育成される。 等

### 【課題である点】

- ・中学生の進路選択の幅が狭められている。
- ・入試に不公平感を覚える。
- ・生徒の学力向上につながらない。
- ・地域によっては、子育て世代の定住促進の阻害要因となっている。
- ・城ノ内高校の募集停止に伴い何らかの対応が必要である。
- ・交通事情等、地域の変化に対応できていない。 等

### 【望ましい改善策の在り方】

- ・通学区域間の流入率の緩和。
- ・高校の特色化・魅力化の推進。
- ・通学区域制の廃止（含 段階的な廃止）。
- ・現状の制度が望ましい（取り組むべき課題が他にある）。
- ・通学区域（含 重複区域）の見直し。
- ・県内全域を通学区域とする新たな学校の設定。
- ・入学者選抜制度の改善。
- ・高校の募集定員の増加。 等



# 通学区域制に関する聞き取り調査結果（詳細版）

徳島県教育委員会では、通学区域制に関する有識者会議を開催するにあたり、通学区域制に関する県内24市町村教育委員会の意見を把握するため、平成30年7月下旬から8月上旬にかけて、次の項目について聞き取り調査を実施いたしました。

ここでは、各市町村教育委員会から頂いた御意見を紹介いたします。

- 現行の通学区域制について、評価できると考える点
- 現行の通学区域制について、課題であると考える点
- これからの通学区域制について、流入率の変更や、県内全域を通学区域とする学校・学科の設定、通学区の見直しなど、望ましいと考える改善策の在り方

| 評価できる点                                                                                                                     | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                        |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1 評価できる点は思い浮かばない。</p>                                                                                                   | <p>中学生の進路の選択肢が極めて狭められていることや、通学区域間で、選択できる高校の数や特色に大きな差異があるなど、制度上、入試の条件が自治体によって有利、不利の不公平感がある。</p> <p>さらに、県内全域を通学区域とする城ノ内高校の募集停止は、第3学区周辺の中学生にとって、進路の選択肢をますます狭めるものである。</p> <p>また、子育て世代が、高校受験のために進路の選択肢が広い他の自治体へ転出するなど、若年人口を中心とした流出が少なからず見受けられ、中長期的なまちづくりの観点からも非常に危惧される問題である。</p> <p>通学区域制は、子供たちの学力向上を阻害している。（通学区域制の撤廃は、切磋琢磨する機会をもたらし、子供たちの学力向上につながるものと考えている。）</p> | <p>地域間での不公平感の解消を図り、中学生の進路選択の機会を保障するため、現行の通学区域制の廃止に向けた入学希望者の在り方の見直しについて、早急に検討すべきと考える。</p> <p>あわせて、地域のまちづくり、教育の核となる地元高校が、これまで培われてきた優れた伝統や校風を生かしながら、生徒や保護者が望んで選択できる学校となるよう、普通科高校の特色化・魅力化のさらなる推進を要望する。</p>                             |
| <p>2 理数科や外国語科など、県内全域を通学区域とする普通科系専門学科を徳島市内普通科高校に設置することにより、特色ある学校づくりを推進しつつ、第3学区以外の生徒が徳島市内の高校を受検しやすい仕組みの整備に努めていることは評価できる。</p> | <p>徳島市周辺に位置するが、重複区域でないために、中学生の進路選択の幅が狭められている。このことは、子育て世代の人口流入や定住促進の阻害要因の一つであると捉えている。</p> <p>県内全域を通学区域としていた城ノ内高校が募集停止となり、それに伴う手当がない場合、徳島市周辺の市町中学生は、ますます進路選択の幅が狭められることになる。</p> <p>進路希望調査の結果等からは、中学生やその保護者の意識の中に、高校に対する序列化が進行していることが読み取れる。中学生が進路先として地元高校を積極的に選択するよう、魅力化を図る必要がある。</p>                                                                            | <p>通学区域制は撤廃すべきである。ただし、短期間で撤廃へ移行することは困難と思われるので、今回の有識者会議では、全廃に至る道筋は示すべきと考えている。</p> <p>また、短期的には、城ノ内高校の募集停止にあわせて、県下の中学生が挑戦しようとする、県内全域を通学区域とする新たな学校の設定を望んでいる。</p> <p>特色選抜に、学習活動で受検できる仕組みの創設を期待する。地域の中学生が地元高校を進路先と考える契機になり得ると認識している。</p> |



|   | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                            | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 3 | 徳島市周辺に位置する普通科高校では、地元の有為な人材が一定の割合で地元高校に進学し、高校生活を送ることにより、将来的には、地元を支える人材として成長することが期待できる。                                                                                                                                             | 中学生の進路選択の幅が狭められており、生徒が行きたい学校を主体的に進路選択できる状況にはない。<br>子育て世代の人口流入や定住促進の阻害要因である。第3学区への流入率は8%であるが、特色選抜(2月実施)に2%が割り振られているため、一般選抜(3月実施)の流入率は、実質6%程度の狭き門である。<br>現行の特色選抜は、スポーツで実績を上げることが高校入学を容易にするという認識を広めている。保護者もその意識が強く、運動部活動の在り方の適正化を難しくしている。                                                          | 原則としては、通学区域制の撤廃を要望する。学校選択の自由が広がり、子供たちの間に切磋琢磨する厳しさも生まれるのではないかと。ただし、一足飛びにその実現は困難であると思われるので、撤廃に向けた段階的な案として、県東部地区広域市町村圏(13市町村)を一つの学区とするよう、通学区区域を見直すことを提案する。<br>また、城ノ内高校に代わる、県内全域を通学区域とする新たな学校の設定も期待したい。                                                                                                   |
| 4 | 普通科高校に進学したい生徒にとっては、一部の生徒を除き、ほぼ確実に地元高校に進学することができるため、生徒にとっても、保護者にとっても、高校入学者選抜に対する負担は小さく、安心感のある制度といえる。                                                                                                                               | 学区内に生徒の進路希望に沿う学校が限られるなど、選択肢が少なく、進路選択の幅を狭めていると強く感じる。通学区区域制は、自由競争の原理に反しており、全国的に見ても、都道府県の過半数がこれを撤廃している。<br>人口の流入や定着の阻害要因となっている。また、同一郡内に、重複区域とそうでない自治体があり、不公平感が住民感情としてある。<br>県内全域を通学区域とする城ノ内高校の募集停止に伴う対応は検討する必要がある。<br>徳島市内の普通科高校と、郡部の高校とでは格差があると感じる。地域の中学生が地元高校に進学しようとすると、には、高校に生徒を引きつける魅力が不可欠である。 | 原則としては、通学区域制の撤廃を目指し、生徒も高校も切磋琢磨する環境を整えるべきと考える。ただし、そこに至るまでには、流入率の引上げといった方策を実施し、段階を踏むことも検討すべきである。通学区区域の撤廃は、一部の生徒・保護者にとっては、意に反して負担が増加するなど、弊害が生じることも予想される。<br>特色選抜に、学習活動での入学校導入を提案する。高校側は入学者の確保のために魅力づくりに努め、そうして入学した生徒は核となって高校の活性化にもつながる。そうすれば、通学区区域制を撤廃する必要はないかもしれない。既に、定員割れを起こしている普通科高校にとっても有効な手段であると思う。 |
| 5 | 地元生徒の視点から見ただけの場合、通学区区域制により、他学区から流入してくる生徒が制限されているため、普通科を希望する地元生徒が地元高校に進学しやすくなっている。また、地元高校の視点から見ただけの場合、徳島市周辺に位置する普通科高校の入学者数確保につながっている。<br>通学区内には、地元高校及び学区内の他郡市の高校、さらに、流入率は設定されているものの徳島市内の高校があり、普通科志望の生徒にとって複数の選択肢の中から進路選択が可能となっている。 | 第3学区周辺の生徒にとって、徳島市内に行きたい学校がありながら、希望がかなわない場合が多く、自由競争の原則にはそぐわない。<br>一方、学区内の他郡市の普通科高校や、徳島市内普通科高校へは8%の流入枠で、それぞれ地元生徒も進学可能であることから、地元高校育成につながらない側面もある。                                                                                                                                                  | 将来的には、通学区区域制廃止の方向へ進むべきとの立場であるが、当面は、流入率の緩和にとどめることが適切であると考えている。<br>現状で通学区区域制を廃止した場合、普通科高校の序列化が進行し、不本意入学者の増加、地元高校における地元中学生的占有率低下、中学校における進路指導の混乱等、多くの問題が表面化するとと思われる。こうした事態を回避するため、通学区区域制に関する検討と並行して、県内の普通科高校について、少子化を見通した高校再編計画や魅力化等の活性化策、私立高校の少ない本県の実情も踏まえた入学者選抜制度の抜本的な見直し等を実施すべきである。                    |

|   | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                       | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                |
|---|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6 | <p>生徒にとって近隣の学校への進学が容易となる。そのため、生徒の多くは自宅から通学することができ、精神面、生活面で、安定した高校生活を送ることが可能である。</p> <p>また、地域の生徒の多くが近隣の学校へ進学することは、地元高校の育成にもつながるものである。ただし、保護者は、高校の教育方針(特に、高校卒業後の進路に向けた生徒の育成方針)を重視して生徒を進学させる傾向がある中で、入学生の確保に向けた高校側の努力が欠かせない。</p> | <p>学区内に位置し、かつ通学区内にある学校数は限られており、中学生の進路選択の幅が狭められていると感じる。一方、学区外にある通学区内の学校へ進学するためには、流入率という高いハードルがあり、制度として公平性に欠けていると思われる。</p> <p>この状況は、学習活動に対する生徒の意欲向上を鈍らせ、ひいては中学校生活全般にも好ましい影響を与えているのではないと捉えている。</p>                                                                                                                                 | <p>通学区域制の撤廃を要望する。撤廃することにより、子供の進路希望や学力、家庭の経済状況にあわせて、幅広い選択肢の中から自由に進路選択できる環境を整備することが望ましいのではないかと。</p> <p>また、撤廃がかなわない場合には、流入率の緩和を希望する。</p> <p>あわせて、専門高校のさらなる充実を期待したい。現在、県内の専門高校から大学進学への道が切り拓かれていると承知している。専門高校からの大学進学という新たなキャリアパスが確立し、その周知が進むと、中学生は普通科高校進学にこだわらないようになると思われる。</p> |
| 7 | <p>普通科高校の配置の観点から見れば、通学区区域制は、徳島市内に高校が偏ることを防ぎ、郡部の高校配置にもつながっている。</p> <p>また、生徒の観点から見れば、他学区から流入してくる生徒数が制限されているため、地元の生徒が地元高校に進学しやすくなっている。通学区区域制がない状態を想定すると、地元高校への進学を希望する生徒の一部は、意に反して遠距離通学を強いられることが予想される。</p>                       | <p>学区外から徳島市内の普通科高校を受検した場合、流入率の枠が小さいため、学区内外の受検者間で難易度が相違することになり、不公平感がある。</p> <p>学区内に位置し、かつ通学区内にある学校数は少なく、そのため学力やスポーツの分野で生徒の進路希望に沿わない場合がある。一方、学区外ではあるが通学区内に位置する学校もある。ただし、同校への進学を希望する場合には流入率が壁となっている。</p> <p>また、通学区内とする学校も、公共交通機関を利用しての通学は不便であり、保護者の送迎等に対応していることから、時間的・経済的負担は大きいものがある。</p> <p>これらの課題は、子育て世代が他の市町に流出する要因ともなっている。</p> | <p>住所のある地域に関係なく、生徒が行きたい学校を自由に選択できる制度とすることが最も大切であると考えている。その方策として、重複区域や流入率の拡大(50%程度)、また、さらには、通学に係る交通手段の確保や、自宅から遠距離の学校に進学する場合も、安心して高校生活を送ることができるよう寮等の充実も、安心して進路選択ができるよう、あわせて、生徒が将来を見据えて進路選択ができるよう、各高校の特色化・魅力化を推進してほしい。</p>                                                    |
| 8 | <p>自治体内には、他郡市の高校へ通学するにも困難な地域があることから、地元の生徒が通学できる地元高校の存続を第一義とする立場である。地元から高校がなくなった場合を想定すると、家庭の経済格差が子供の進路選択に影響を及ぼすことも考えられる。その点、現行の通学区区域制が、他郡市の高校と均衡を保ちながら、地元高校の存続に寄与してきたという認識はあり、評価できる制度と捉えている。</p>                              | <p>地元へ高校を擁する立場としては、現行制度に対する課題は感じていない。</p> <p>一方で、何らかの理由により生徒の所属学区を変更する場合、その手続等にわかりにくい部分があると認識している。現行制度には、受検機会の公平性の観点で課題が残されていると思われる。</p>                                                                                                                                                                                        | <p>地元高校の存続を第一義とし、同校の魅力強化推進を自治体としても支援することにより、地元中学生も含めた生徒募集につなげていきたいと考えている。</p> <p>以上を前提とした上ではあるが、県全体の視点から捉えた場合、通学区区域制は撤廃したほうが望ましいと思われる。子供の進路希望があり、保護者もそれを認めているのであれば、受検機会を保障し、それにより行きたい学校に向けて生徒の努力を促す制度へと変更すべきであると考えている。</p>                                                 |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 課題である点                                                                                                                                                                                                                          | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | <p>現行制度は、生徒が地元高校で学ぶ環境を確保し、不本意な遠距離通学による、時間的・身体的・経済的負担の増大を抑止している。</p> <p>また、通学区域を超えて特定の高校に進学希望が集中することなく、学校間格差の拡大防止にもつながっている。</p> <p>入学選抜では、著しい定員超過や定員割れが生じにくくなっている。公立高校への進学者が圧倒的に多い本県において、生徒の円滑な進路決定に寄与している。</p> <p>さらに、県内各地域の高校で、一定水準以上の地元生徒占有率が維持できている。地元高校に多くの地元生徒が在学することで、高校と地域が連携・協働する体制の構築が可能となり、高校を核とした地域づくりが推進され、地域の活性化につながっている。</p> | <p>現行の通学区域制において導入されている、学校選択に幅を持たせるための諸制度(県内全域を通学区域とする普通科系専門学科の設置等)は、一部の生徒・保護者にとつては、遠距離通学や不本意入学を強いる結果となり、負担増大につながっている。</p> <p>各地域の進学環境の変化(通学に係る公共交通機関等の交通事情、地元高校の統廃合や学科再編等)により、学区内の普通科高校に進学するほうが、生徒・保護者の負担が軽減される地域が見受けられる。</p>   | <p>学区内の普通科高校よりも、他学区の普通科高校に進学するほうが、生徒・保護者の負担が軽減される地域については、通学区域の見直しといった配慮が妥当である。</p> <p>第3学区で流入率の引上げや県内全域を通学区域とする学校を新たに設定するといった手法を採る場合は、募集定員の増加をあわせて行う必要がある。第3学区の高校については、生徒の進路希望と募集定員との間に乖離がある。徳島市立高校については、同校への進学を希望する徳島市内の中学生に向けて、十分な募集定員が確保されること望ましい。</p> <p>何らかの制度変更に伴い、徳島市内への生徒集中が懸念されることから、各地域の普通科高校の特色化・魅力化を図り、地元高校の育成、ひいては地域の活性化につなげる施策が必要となる。</p> |
| 10 | <p>重複区域扱いであることから、地元の中学生在が通学環境として便利な徳島市内の普通科高校を進路選択できる状況にあり、評価できる。</p> <p>県内全体を見渡した場合でも、各地域の中学生が地元高校に進学しやすい制度となっており、地元高校の育成につながると考えている。</p>                                                                                                                                                                                                 | <p>徳島市内に位置する普通科高校は県立高校であるので(除 徳島市立高校)、通学区域を設けて、一部市町村の生徒の受検機会が優先されている現状は問題である。</p> <p>農業や商業等の専門学科に通学区域はなく、現状でも、市町村を超えて生徒の流入・流出がある。普通科だけ通学区域を設けていることに、制度としての問題はないのか。</p> <p>また、地元高校に進学しやすいことの裏返しとして、生徒の中に高校入試に対する緊迫感が見受けられない。</p> | <p>普通科を目標としている生徒が、住所のある地域に関係なく徳島市内の高校に進学できるよう、城ノ内高校に代わる県内全域を通学区域とする学校を、通学環境のよい地域に設定することを期待する。</p> <p>何らかの手法により、徳島市内の普通科高校に学区外から進学しやすい制度を導入した場合は、徳島市立高校は徳島市が設置している高校であることから、受検に際し徳島市内の中学生が優先される制度を考える必要がある。</p>                                                                                                                                          |
| 11 | <p>重複区域扱いである現行制度は、子供が距離的に近い徳島市内の普通科高校に進学することを可能とする制度であり、自治体としてベストな状態であると捉えている。</p> <p>県全体の地勢的な状況、公共交通機関の整備状況を考慮した場合でも、現行制度が望ましいと考えている。</p>                                                                                                                                                                                                 | <p>課題は見当たらない。</p>                                                                                                                                                                                                               | <p>自治体としては、地域の中学生を積極的に地元高校に進学させるなど、地元高校の育成に力を注ぐべきであると考えている。現状でも徳島市から、意に反して他郡市の高校へ進学している生徒が多くいる。仮に、現行制度を緩和して、徳島市内の高校を学区外から受検しやすくすると、さらに徳島市外への進学を余儀なくされる子供が増える。そのため、制度を変更する場合でも、大きく変更するのではなく、流入率を若干、引き上げることが望ましいと考える。</p> <p>また、徳島市内にあり、県内全域を通学区域とする普通科系専門学科(理数科、外国語科)について、募集定員を増加することも検討してはどうか。</p>                                                      |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                     | 課題である点                                                                                                                                                                          | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12 | <p>地元自治体に高校はないが、隣接する自治体の通学圏内に高校があり、地元の高校と捉えている。現行制度は、地元高校に進学しやすく、遠距離通学の回避につながり、子供の観点から見ても、保護者の経済的負担という観点から見ても評価できる。</p>                                                                                    | <p>制度そのものに課題は感じていない。</p>                                                                                                                                                        | <p>制度の変更を前提として、現状維持が望ましいと考えている。現行制度は、通学区域にあっては、現行制度を維持し、受検競争の過熱化や学力偏重の傾向を招き、経済的に困難な生徒も含めて多くの生徒が遠距離通学を強いられることにつながり、地元高校の育成という考え方も逆行する。通学区域制の廃止は、子供たちの自由競争を保障するという側面はあるものの、私立高校が少なく、生徒の受皿となる学校が乏しい本県の現状では、生徒の不安感が増すことが懸念される。</p>                                                                                                                                           |
| 13 | <p>生徒の視点から考えた場合、比較的近隣の普通科高校に進学しやすい制度であり、生徒やその保護者の様々な負担軽減につながっている。</p> <p>13 高校の視点から考えた場合、第3学区以外の高校にとっても、地元の中学校から安定して生徒が確保できる制度であり、とりわけ徳島市周辺に位置する普通科高校の育成、存続に貢献していると捉えている。</p>                              | <p>県全体の中学・高校生の学力向上という視点から見れば、通学区域制はマイナスに働いているのではない。入学者選抜という切磋琢磨する機会はあるが、現行制度の下では生徒は合格しやすくなっている。これは高校入学後の学力伸長とも関わる問題である。子供の将来を見据えた場合、入学者選抜制度において、現状よりは厳しい学習環境を整える必要があるのではない。</p> | <p>通学区域制の撤廃を求める意見は理解するが、現状からの大きな制度変更は、様々な問題を伴うと思われる。差し当たって、第3学区の流入率の緩和や募集定員の増大を検討すべきではないか。また、現行の通学区域は市町村を単位としているが、中学校区等、異なる単位による通学区域の見直しも検討に値すると考える。</p> <p>一方で、自治体としては、地元高校の支援・育成を図るという姿勢を表に出すべきである。これは、地元の学校に勤務する教職員にも影響を与える問題である。</p> <p>通学区域制とあわせて、普通科高校の適正規模を検討すべきではないか。小規模校は教員の配置数が限られ、各教科・科目の専門性を持った教員による、生徒の興味・関心を高める授業が困難になっていると思われる。普通科高校の統廃合を検討すべき時ではないか。</p> |
| 14 | <p>地元高校に進学しやすく、生徒・保護者の負担が大きい不本意な遠距離通学を抑制している制度である。</p> <p>過疎化の進む地域では、子供を持つ家庭の都市部への流出の抑制にもつながっていると思われる。</p> <p>14 高校の視点から考えた場合、徳島市内普通科高校への進学希望の集中を緩和し、地元高校育成に大きな役割を果たしている。</p> <p>また、学校間格差の緩和にもつながっている。</p> | <p>現行の通学区域制に、課題は感じられない。</p> <p>通学区域制が、子供たちの切磋琢磨する機会を阻害し、学力向上につながらない一因であるとの意見を聞くが、子供の学力の問題は、通学区域制とは本質的に異なる問題である。</p>                                                             | <p>47都道府県のうち通学区域制を廃止した自治体が半数以上という全国的な傾向はあるにせよ、本県の地域事情を踏まえて、現行の通学区域制がある。現行制度がどのような趣旨で構築されたのかを吟味し直し、改善が前提であるにせよ、慎重に検討すべきである。</p> <p>そもそも、通学区域制の在り方を検討する前に、安心して地元高校に進学できる環境を整備することを優先すべきではないか。こうした取組を推進し、さらに問題がある場合には、次に通学区域制を見直すというのが適切な順番であると考えられる。</p>                                                                                                                   |

|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | 課題である点                                                                                                                                                                    | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 15 | <p>地元及び学区内の他都市に普通科高校があり、複数の専門高校・学校も位置していることから、地域の生徒の多くはこれらの学校に進学している。現行制度は、通学区域が設けられていない専門高校も含めて、地元高校の育成に大きな効果があると捉えている。</p> <p>ただし、地元高校の育成は、通学区域という制度によってのみもたらされるものではなく、市町村教育委員会及び地元小・中・高等学校の日頃からの連携と、そうした土壌の上に築かれる地元中学校の進路指導における地元高校への協力体制が欠かせないものと考えている。</p>                                               | <p>通学区域の限定により、学校の序列化や学校間格差の発生、通学できる学校に限られるなどの問題点も指摘されているが、本自治体としては、現行制度の下、地域における各学校の教育内容も多様化されており、保護者や受検生にとって選択する機会も多く与えられているなど、課題は少ないと考えている。</p>                         | <p>制度の変更は必要ないとの立場であるが、改善を前提とするのであれば、流入率を変更し、現行の割合を、多少、引き上げることが望ましいのではないかと。</p> <p>通学区域の見直しを図り、徳島市内の普通科高校へ進学しやすい環境を整えるという考え方ではなく、地元の高校へ進学したいという子供を義務教育段階を通じて育てていくべきだと考えている。</p>                                                                              |
| 16 | <p>学区内の通学園内に複数の普通科高校があり、流入率8%の枠内で徳島市内の普通科高校へも進学可能である。同じく通学園内には専門高校も位置し、生徒は複数の選択肢から進路選択できる環境にある。自治体としては、こうした環境を歓迎するとともに、地元の子供には地元高校への進学を勧めるという基本的な考え方の下、地元高校の育成に努めている。</p>                                                                                                                                     | <p>県内全域を通学区域としていた城ノ内高校を募集停止とすることについては、何らかの対応が必要と考えている。また、現状に不公平感を抱いている地域もあることから、その解消に向けた何らかの変更は必要である。</p>                                                                 | <p>城ノ内高校に代わる県内全域を通学区域とする学校の設定を提案する。徳島市内普通科高校1校について、通学区域の撤廃を検討してはどうか。あわせて、他の徳島市内普通科高校の流入率を引上げることについても検討に値すると考えている。</p> <p>地元高校の育成という観点からすると、平成15年度まで実施されていた推薦入試が効果的であったと捉えている。</p>                                                                           |
| 17 | <p>学区内の通学園内に、生徒の進路希望に応じた複数の学校がある。特に、地元普通科高校は、長きにわたり地元を支える人材を輩出しており、なくてはならない学校である。通学区域制は、他学区から流入してくる生徒数を制限するたため、地元の生徒が地元高校に進学しやすくなっている。地元の子供は地元の高校へ進学すべきであると考えており、それを保障する現行の通学区域制は評価できる。</p> <p>保護者も地元高校出身者が多く、地域が一体となって地元の高校を盛り立てようとする雰囲気があり、好循環につながっている。</p>                                                 | <p>現行制度に対する課題は感じていない。</p> <p>ただし、通学区域制が撤廃された場合は、地元普通科高校に進学しようとする層が他の高校へ流出し、地元を支える人材を輩出していた高校への進学者がいなくなるのではないかと危惧している。</p>                                                 | <p>現行制度について不公平だと感じている地域があることから、指摘されている課題について検討し、是正する必要があると思う。</p> <p>ただし、地元高校育成のためにも通学区域制は必要であるとの立場であるので、現行制度を基本として、流入率を緩和するなどの方策が望ましいと考える。子供の意に反した遠距離通学を助長する制度変更は避けるべきである。</p> <p>県南部・県西部の学校の募集定員増加を図るといった活気をもたらす方策を導入し、郡部の高校が生徒にとって魅力的な学校となるよう努めてほしい。</p> |
| 18 | <p>地元及び学区内の他都市に、それぞれの性格を有した高校があり、通学区域制によりその均衡が保たれている。地域の子供たちが、これらの地元高校に進学しやすいことのメリットは大きく、学習活動や部活動の充実につながることも、保護者の経済的負担も軽減される。子供たちの中に地元に対する愛着が芽生え、将来的に地域を担う人材になり得ることは、地域社会にとっても有意義である。</p> <p>郡部に位置する高校にとっては、学習面で意欲ある生徒も含め、入学生を確保することが可能となっている。</p> <p>また、日頃から、中学・高校の連携が進んでいることから、中学校側としても、細やかな進路指導が可能となる。</p> | <p>通学できる範囲に多くの学校が位置するとは言えず、子供たちに高校の自由な選択を保障するという観点からは課題が残ると捉えている。</p> <p>ただし、私立学校が少なく、少子化が進行しているといった本県を取り巻く事情を考慮した場合、制度に課題があることは認めるものの、通学区域制は各地域の高等学校が生き残る道であると考えている。</p> | <p>城ノ内高校の募集停止にあわせ、流入率を若干、引き上げることが適切であると考えている。</p> <p>通学区域制を撤廃した場合、学校選択の幅は広がるが、学校間格差が広がり、序列化が進行するとともに、受検競争の激化も予想される。不本意入学の生徒も増加し、将来的に地域を担うはずの人材が流出する。定員割れを起こす学校も今より増加するであろう。社会全体の視点からこの問題を捉えた場合、それでいいのか、という思いがある。</p>                                        |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                             | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 19 | <p>地元に子供の育つ教育環境が整備されていることが最も重要であるとの立場である。通学区域制は、各通学区域に大きな学校間格差が生じることのないように高校を配置し、子供に通学等で無理のない高校生活を送らせようとしている点で評価できる。</p>                                                                                                                                                                                                       | <p>地元に通学区域制を希望する生徒や、それを後押しする保護者がいるという現実、徳島市以外に位置する普通科高校が、進みたいと思わせる高校とはなっていないことの現れであり、高校の魅力化が図られていないことが課題であると捉えている。</p> <p>仮に通学区域制を撤廃した場合、特定の高校に志願者が集中することが予想され、ひいては、学校間格差の助長につながると思う。</p>                                                          | <p>通学区域制の在り方を検討する前に、徳島市以外に位置する普通科高校について、学校の魅力化を図ることが優先事項であると考え。</p> <p>県内各地域に位置する全ての普通科高校が、学力、文化芸術、スポーツの分野で、生徒を満足させる3拍子そろった学校となる必要がある。現在の学校を、そのような学校にスピード感を持って育てるためには、高い意識を有した校長のリーダーシップと、それに応えることができる教員の配置が重要と考える。</p>                                                                 |
| 20 | <p>社会における地方創生という流れの中で、少子化や過疎化の進行が顕著な市町村では、高校を町づくりの核の一つと捉え、高校の活性化を図り、ひいては地域の活性化につなげようと努力している。通学区域制は、地域の高校の存続につながるものであり、課題はあると認識しているが、今のところやむを得ない制度であると考えている。</p>                                                                                                                                                                | <p>自由競争の社会にあって、子供たちが行きたい学校へ進みたいと願っても、地域によって制限があるのは課題であると認識している。市町村により制限に対する考え方は様々であると思うが、地元にある高校を育てていくためには、やむを得ないとの立場である。</p>                                                                                                                      | <p>制度に完全なものはなく、何らかの限界がある。この度、通学区域制を改善することであるが、その結果に対しては、市町村教育委員会を含め、関係者全てが納得するということとは考えられない。</p> <p>今、取り組むべきは、徳島市内普通科高校に負けないように、他の普通科高校の魅力を作り上げ、特色化・活性化を図ることである。その魅力は、学力面にこだわることなく、各高校が置かれた実態に即した魅力であればよい。生徒やその保護者、中学校、市町村教育委員会は、そうした高校の存在を高く評価している。そして、自治体も一体となって、地元高校を育てていくべきである。</p> |
| 21 | <p>現行制度は、郡部に位置する地域の高校にとつて、地元中学生の進学が見込まれ、高校の存続につながっている。少子化の進行する自治体では、高校の活性化が、連携する幼小中の活性化や、町全体の活性化という相乗効果を生むなど、高校が町づくりの核となっており、その存続をもたらす通学区域制は大いに評価できる。自治体としても、地元高校を積極的に支援している。</p> <p>また、保護者にとつても、子供を地元高校に通学させることにより、教育費等の経済的負担が軽減されている。</p> <p>さらに、通学区域制がない状態を想定すると、学校間格差の助長につながることを予想される。実際には、通学区域制により格差拡大が抑制されていると考えられる。</p> | <p>県全体の視点から考えた場合、生徒にとつて選択肢の幅が狭められているという課題はあると認識している。行きたが学校が選択肢としてあれば、生徒は目的意識を持って努力する。現状は、通学区域制により地元高校に進学しやすくなっているため、学習に対する意識が高くない生徒が見受けられる。</p> <p>また、通学区域内の学校数が限られるため、特色化などで面で学校間の競争が行われにくいという課題もある。通学区域が撤廃されれば、従来あった学区の枠を超えて学校間の競争が行われるであろう。</p> | <p>通学区域制の撤廃には反対する。撤廃した場合は、中学生の進路希望が徳島市方面へと向かうことが予想され、郡部に位置する学校は定員割れを起こすであろう。生徒数の減少は教員数の減少を招き、地域の学校では子供に多様な教育が保障できなくなってしまう。</p> <p>一方で、現在、募集定員の確保に苦慮している県南部や県西部、さらに山間部に位置する学校について、現行の通学区域制を適用しない新たな枠組みの学校とすることは検討できないかという思いがある。</p>                                                      |



|    | 評価できる点                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 課題である点                                                                                                                                                                                                                                             | 望ましい改善策の在り方                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 22 | <p>現行制度は、学区間における学校間格差の調整機能を果たしている。かつて本県では小学区制(1学区1校)の時代があり、近隣の高校からも有為な人材を輩出していたが、3学区制となって以降、当該校は学校間格差に直面している。現状で、通学区域制を廃止した場合、徳島市内(第3学区)への生徒集中が進み、第1・第2学区で一定規模を有する高校は学校間格差に直面することになる。</p> <p>また、保護者の費用負担軽減にもつながっている。通学区域制の廃止は通学区域の拡大を意味し、通学に係る経済的負担の増大が予想される。家庭の経済格差が子供の進路選択に影響を及ぼすことが懸念される。</p> | <p>通学区域制の下で重複区域を指定していることが、制度に対する不公平感の原因であると考えている。</p>                                                                                                                                                                                              | <p>現在の通学区域制は堅持すべきである。(撤廃は、学校間格差を拡大し、生徒の地元高校離れを招くことになる。)</p> <p>その上で、佐那河内村については、通学区域を見直して第3学区とし、その他の重複区域は解消して、本来の第2学区に位置付けるべきと考ええる。</p> <p>また、県内全域を通学区域としていた城ノ内高校の募集停止については、従来、徳島市周辺の市町から同校に進学していた生徒数を算出し、それに見合う人数が新たに合格できるよう第3学区への流入率を緩和することで、生徒の受皿とすることを提案する。</p> <p>自治体は、地元高校の積極的支援に努めるべきである。</p>                       |
| 23 | <p>生徒の視点から見た場合、通学区域制により他学区から流入してくる生徒数が制限されているため、普通科を希望する地元生徒が地元高校に進学しやすくなっている。</p>                                                                                                                                                                                                               | <p>自治体としての課題は感じていない。</p> <p>県全体の視点から考えた場合、農工商等の専門学科には通学区域がない一方、普通科には通学区域が設定されており、子供たちの自由な学校選択が保障されていないことは課題であると認識している。</p> <p>なお、これからの通学区域制を検討するにあたっては、今後の本県高校教育が目指す方向性を明確にする必要があると思われる。</p>                                                       | <p>現行の通学区域制に対して、変更を求める自治体の意見、慎重な対応を求める自治体の意見、双方の意見とも理解できることから、双方にとって望ましいと言える在り方については軽々に論じられない。</p> <p>一方で、現在の中学2年生対象の入学者選抜から制度を変更することであるが、その変更が郡部の高校に与える影響については十分に考慮してほしい。徳島市内の高校に学区外から進学しやすい制度を導入するのにあわせて、郡部の高校の募集定員を減少させるなど、地域の生徒にとって地元高校への進学が制限される変更であってはならない。</p>                                                     |
| 24 | <p>地元高校に進学しやすく、生徒・保護者の進路に対する精神的な負担や、通学等に要する経済的な負担等、様々な負担が軽減されている。</p>                                                                                                                                                                                                                            | <p>通学区域制の課題としては、学力やスポーツの分野で、学区内に生徒の進路希望に沿う学校が限られるなど、選択肢が少ないことが挙げられる。</p> <p>ただし、県全体を考えた場合には、通学区域制以上に、少子化がもたらしている課題への対応を優先して検討すべきと考ええる。徳島市から離れた地域の高校では、募集定員の確保に苦慮し、その結果、高校内での学力格差が拡大していると聞く。そもそも、普通科高校の適正規模を考えた場合、現在の学校数が必要なのか、検討すべき課題であると思われる。</p> | <p>通学区域制に関しては、交通事情など通学環境の変化や、子供の要望をかなえたいとする保護者の意識の変化を踏まえ、学力やスポーツの分野で、子供の進路の選択肢が拡大するよう改善することが望ましいと考ええる。その際、通学区域制の早期廃止に賛成するものではないが、廃止した場合、入学生の確保に向けて高校側の一層の努力が期待できるなど、一定の効果は見込まれる。</p> <p>現段階では、少子化に直面する地域の学校が募集定員を確保しやすいよう、生徒や保護者に見える形で学校の特色化・魅力化を推進したり(特に、高校卒業後の進路に結びつくような特色・魅力を期待する)、入学者選抜制度の改善を検討することが優先されるべきと考ええる。</p> |